



五
九
六
一
八
八



特
696
108

○上海新報

辛未年三月三十日

洋紙兩面揭抄寫 許細野陳謹

小寺啓
玉泉寺



拍賣員原色等布

啟者今於五月初二日兩點鐘在太平棧房內拍賣原色布與荷蘭斜紋布及各樣布約共十包稍有不潔欲買者請來拍定可也特此佈聞
四月三十日
義泰洋行啟

中上原色布二日太平棧房內之原色布と荷蘭

蘭の斜紋布とその他の布と拍賣

の布と拍賣の布と拍賣の布と拍賣

拍賣員花旗斜紋布

啟者今於五月初三日拾一點鐘在同字棧內拍賣花旗斜紋布二十一包欲買者請來拍定可也特此佈聞
同茂洋行啟

中上原色布三日同字棧房之花旗の斜紋布

二十一包拍賣の布と拍賣の布と拍賣

上海新報

號九百五第式新 日捌念月肆年未辛 四拜禮

NEW SERIES, No. 519.] SHANGHAI, THURSDAY, 15th JUNE, 1871.

上海行情

紙情行情 股海上海... 匯豐銀行... 渣打銀行... 怡和洋行... 招商局... 華商... 新立... 保安... 華商... 新立... 保安... 華商... 新立... 保安...

各公司行名 已付資本 得利息... 匯豐銀行 每份一百廿五元... 渣打銀行 每份一百廿五元... 怡和洋行 每份一百廿五元... 招商局 每份一百廿五元... 華商 每份一百廿五元... 新立 每份一百廿五元... 保安 每份一百廿五元... 華商 每份一百廿五元... 新立 每份一百廿五元... 保安 每份一百廿五元...

洋東國中 公司保險海保... 啟者本公司於去年... 英十二月三十一日... 爲止所有餘利... 來取用其相若... 司者在各大公... 取銀其在各口... 佈聞 四月十四日... 寶裕洋行啟

新立 啟者本行奉告 諸商... 華商 啟者本行奉告 諸商... 保安 啟者本行奉告 諸商... 華商 啟者本行奉告 諸商... 新立 啟者本行奉告 諸商... 保安 啟者本行奉告 諸商...

租出房洋 啟者本行內... 有房一所... 意欲出賃... 有意者請至... 馬立洋行... 啟

啟行報電國中比 啟者本行於今日爲始... 用中國字由電報... 必發信之人親... 之中國字以便... 可寄信至香港... 五百個某字俱... 千五百個某字... 買回以中國字... 之號碼寫明送... 電報行啟

租出房洋 啟者本行內... 有房一所... 意欲出賃... 有意者請至... 馬立洋行... 啟

錫魚三十一兩六分... 丹皮二十二兩... 淡菜六十三兩... 中七兩... 蝦米十六兩... 小八兩... 乾貝六兩... 中次三十六兩... 石耳... 洋菜上二十六兩... 木魚上十一兩... 樟腦上十五兩... 鹿角雙支十三兩... 皮紙光邊十兩... 綠麵... 蒜上四兩... 五椏子二兩... 松板七尺厚... 長七尺厚... 淡水龍上三兩... 白蠟八兩... 火炭五錢... 烟煤上五兩... 桂皮二兩... 棕皮上二兩... 烟葉上三兩... 各貨物... 檳榔老山... 降香實... 暹羅米... 木香... 白芷... 丁香... 蘇木...

SHANGHAI—Printed and Published on TUESDAYS, THURSDAYS, and SATURDAYS, at the Office of the "North-China Herald." Price \$4 per annum, \$5 for Coast Ports and Japan. Advertisements 2 dollar cents per character space H.K. type, for the first 50 characters beyond that number 1 dollar cent per character space, translation included. Advertisements requiring translation should be sent in before 9 p.m. on the days preceding publication.

啟者本館上... 本館主人啟

酒後專事... 本館主人啟

高麗近事... 本館主人啟

大津信... 本館主人啟

舍己救人... 本館主人啟

謠言勿聽... 本館主人啟

江蘇新進... 本館主人啟

士錄... 本館主人啟

醫局施醫... 本館主人啟

關帝明聖... 本館主人啟

附札... 本館主人啟

來札... 本館主人啟

員道補調... 本館主人啟

報日省蘇... 本館主人啟

書來答敬... 本館主人啟

馬軍制... 本館主人啟

瑞士國海... 本館主人啟

楊子江保險... 本館主人啟

新到西國... 本館主人啟

各色茶葉... 本館主人啟

小洋錢... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

本館啟... 本館主人啟

拍賣外國衣

啟者今於五月初二日晚九點鐘在本行內拍賣外國衣
目彩長短寬窄俱全約有八百件分開零賣買各
最便合意者請來拍定可也特此佈聞
○上日本行內五月二日晚九點鐘拍賣外國衣長短
寬窄不一約有八百件分開零賣買各
最便合意者請來拍定可也特此佈聞
○上日本行內五月二日晚九點鐘拍賣外國衣長短
寬窄不一約有八百件分開零賣買各
最便合意者請來拍定可也特此佈聞

公平行告白

啟者本行全漢磚禮擇於五月廿一日回里如各寶行
諸相友與本行有交易未結及一切瑣事或須面談
者務於動身之前請至本行交割為禱特此佈聞
同治十年四月三十日 公平行漢璧禮
○上日本行全漢璧禮擇於五月廿一日回里如各寶行
諸相友與本行有交易未結及一切瑣事或須面談
者務於動身之前請至本行交割為禱特此佈聞
同治十年四月三十日 公平行漢璧禮

板松坂

輪船往長崎處等

啟者本行受末羅輪船准於五月初四日早開往長崎大
板橫濱等處各寶號欲下裝載貨搭客者水脚便宜
祈至本帳房面談可也此佈
○上日本行受末羅輪船准於五月初四日早開往長崎大
板橫濱等處各寶號欲下裝載貨搭客者水脚便宜
祈至本帳房面談可也此佈

洋房出租

啟者本行內有洋房一所棧房一所並有小房數間意
欲出租如貴客合意者請至本帳房面議可也
○上日本行內有洋房一所棧房一所並有小房數間意
欲出租如貴客合意者請至本帳房面議可也

北中國電報行啟

啟者本行於今日為始凡有華商用中國電報由電報寄
信至香港者必寄信之人親至本行揀出所用之中

日本禁酒漢騎馬

聞東洋長崎英領事。因外國水手醉後騎馬。身不自
由。每易招禍。欲囑巡捕見外國上岸。醉後騎馬。或酒
後滋事。即行拿究。此事在上海甚多。若巡捕
嚴行拿獲。各國領事。官照例懲辦。省却無數
事端。

日本長崎之英領事。官外國の水手は酒
酔ひて馬を乗る事ありて。世に或る事あり。巡捕
官より。酔後騎馬。或は酒後滋事。或は
巡捕官を侮る事あり。此等事は。上海に於て
尤も甚多し。若し巡捕官が此等事を見れば。即ち
外國領事官に報告し。彼等は。省却無数の事端
を省くべし。

水牛救落水小孩

聞新聞大橋南境西首近天王廟地方。於二十七日午後、
有一婦人。携帶小孩。年約八九歲。沿河堤行走。忽然

小孩跌倒。滾入河下。載沉載浮。幾至性命不保。婦人喊
救。人皆束手。不料河邊有水牛一隻。見小孩溺處。約
二三丈之遙。水牛急起。奔赴水下。以角提小孩髮辮。拖
之上岸。得免於死。按水牛性物也。似此勇於救人。
又至靈矣。凡人見免不救者。真水牛也。

金不換

此間尚有
母後之事

觀於林都聞永芳之奮跡而嘆英雄混跡疑無賴之
說不誣也若乃原籍粵東番禺父買於滇東因以為
家生三子長永春次即也父年逾五秩得不起疾
時春已冠矣父所業頗豐以春力頗謹厚其命其恪
守遺業無以蕩檢耗其櫛風沐雨之資春迄受命
父沒後謹循先範而各途細紀尤為操縱自如老於
質遷者皆許其為不易才春外務生理內總家效奉
每撫弟頗稱孝友弟亦性頑不能讀春體母善命其
罷讀居肆學實焉芳校室後性轉不羈肆中諸
務各不關心春時諄諄諭之如東風耳春乃告
母曰兒不肖不克承先志以至有不能教訓今若
此實無顏見母母曰一樹之果酸甜各異爾但謹守先
業彼之不在我培亦無如何春曰兒實思見母流落
但恨不能起先人於九泉俾由真訓無裨世迷耳
同治九年春奉母諭囑芳留意生勸芳勿諾侯
每畢請於兄曰弟不自愛淪於飄蕩今知悔矣請
予五百金從人至緬甸弟買玉石或可少舒發春曰

弟肯留心正業區區者復何難措但不可仍蹈前轍
芳矢天日為駭得資以成德願作揮毫如生不旬日而數
畫兒見其不束裝察之洞洞知端末嘆曰吾弟真才也矣
乃置之使其坐食並不使人歸防六盡耗也弟知兄置不
奮然曰安見昂昂藏藏七尺而而遂不能發跡耶父所遺不薄
皆從不事生業亦無凍餒然予不戀此也遂去春知
之已無及矣去冬忽有檄報其兄始悉弟以出亡後歷山陝
河南諸省初為募勇受提戎抑大福知遇以軍功拔補千
總以各林處春旋升都司兄不勝欣慰後隨征貴州克復
永甯州城之役與有力焉攻城時徒中鎗彈已洞其股猶奮
死登城以劍極仆於城上敵樓同事者援之還營征夜甫解
二傷然非巨創最奇者左手小指喪其二截而竟不及焉
李君基亦勇人傭工於永春肆中自滇省歸偶抵港而道
其梗概如此選香港四月初七日新報
右解上後以了大概可知故剖點之施以の
外國鐵大輪車機器圖說 有同略
此外國大輪車鐵機也著力之處在左邊大輪大輪一動前

○東之京之新出之原引拂之は府種より其の除雪
 度下越之原に及ぶ迄は一定の向一なり
 黄女之原は僅に四五歩之程を越せば
 所外は長たはるが如し橋を以て早敷之原
 少くは白の原と云ふ所は早敷之原に
 河ノ原と云ふ所は二町四角の地に
 横アリ之原と云ふ所は此の地にて
 橋あり之原と云ふ所は此の地にて
 今ノ原と云ふ所は此の地にて
 シノ原と云ふ所は此の地にて
 ル者ニシテ別な所ニシテ是ノ原
 明治ノ原と云ふ所は此の地にて
 本年ノ原と云ふ所は此の地にて
 失つた原と云ふ所は此の地にて
 害シ除キ一人も其れヲ得サレ者
 本年ノ原と云ふ所は此の地にて

横河 志左
 此の原は...
 志左

特命今大使上三政并各國長官具視

右

冬後亦不存元
大前今大久保利面
予起不備竹友博文
和勢多捕山口尚芳

治令全權副使下三政并各國長官具視

和勢多捕山口尚芳
日大元 諸因島松
德地源一

小坂將命全權大使政并各國長官具視

和勢多捕山口尚芳
日大元 諸因島松
德地源一

今政將命全權大使政并各國長官具視

○今松山行下政

後世松山行下政
言松山縣也
長門縣之舟後
平未九月号

東京函

書同家所云松縣都之日不同之由一為
和勢多捕山口尚芳

谷口は松平頼徳が京都参上する者
際に出立の内不同の旨は借入金に
戻すは、いふは、参上する者
浪及びの由や
辛未九月十日

辛未九月十日
中

○列状

○其の年頼徳が松平頼徳の
○佛人の使に國ある共和政は其の
追ふに旧國王の子孫は其の國と
れ、國成りて、其の國は、佛人の
○氏四國の復讐は、其の國は、
○辛未秋
○辛未秋
○辛未秋

○其の年頼徳が松平頼徳の
○佛人の使に國ある共和政は其の
追ふに旧國王の子孫は其の國と
れ、國成りて、其の國は、佛人の
○氏四國の復讐は、其の國は、
○辛未秋
○辛未秋
○辛未秋

○今の上所は、行幸の互成りし中、金
中、頼徳が松平頼徳の
○辛未秋
○辛未秋
○辛未秋

行幸ハ陸下ノ直垂ニのミ立馬御幸

香江支那... 陸下ノ直垂ニのミ立馬御幸

天... 尤進退... 陸下ノ直垂ニのミ立馬御幸

可...
...
...

三...
...

鳥...
...

右...
...
...

○...
...
...

一...
...
...

且正にりやの錫の産るは人跡のこわりの料理の上と云

志能縣の何れ

一、志能縣の常陸の郡に有る白河の山に於て、昔は、
平家朝長が、平家朝光の弟朝光の、
平家朝長が、平家朝光の弟朝光の、
平家朝長が、平家朝光の弟朝光の、

志能縣の何れ

○其縣之大湯、
其縣之大湯、
其縣之大湯、

○九月二日、
○九月二日、
○九月二日、

○其縣之大湯、
其縣之大湯、
其縣之大湯、

○其縣之大湯、
其縣之大湯、
其縣之大湯、

○其縣之大湯、
其縣之大湯、
其縣之大湯、

○其縣之大湯、
其縣之大湯、
其縣之大湯、

○其縣之大湯、
其縣之大湯、
其縣之大湯、

○其縣之大湯、
其縣之大湯、
其縣之大湯、

○其縣之大湯、
其縣之大湯、
其縣之大湯、

開化美事

○其縣之大湯、
其縣之大湯、
其縣之大湯、

○其縣之大湯、
其縣之大湯、
其縣之大湯、

○其縣之大湯、
其縣之大湯、
其縣之大湯、

元勳の遺書に於て、八歳にして、父の遺言に依りて、
皇太子に侍らる。四年の皇太子に侍らる。元勳の遺言に
依りて、皇太子に侍らる。元勳の遺言に依りて、
皇太子に侍らる。元勳の遺言に依りて、皇太子に侍らる。

皇太子に侍らる。元勳の遺言に依りて、皇太子に侍らる。
皇太子に侍らる。元勳の遺言に依りて、皇太子に侍らる。
皇太子に侍らる。元勳の遺言に依りて、皇太子に侍らる。
皇太子に侍らる。元勳の遺言に依りて、皇太子に侍らる。

別表
石見義隆

石見義隆
何れに非

○日九廿五
先般の日の海軍の艦隊は、
先般の日の海軍の艦隊は、先般の日の海軍の艦隊は、
先般の日の海軍の艦隊は、先般の日の海軍の艦隊は、

先般の日の海軍の艦隊は、先般の日の海軍の艦隊は、
先般の日の海軍の艦隊は、先般の日の海軍の艦隊は、
先般の日の海軍の艦隊は、先般の日の海軍の艦隊は、
先般の日の海軍の艦隊は、先般の日の海軍の艦隊は、

一馬
一馬
一馬
一馬

一馬
一馬
一馬
一馬

日新

以香

東京

新編神皇正統記 藤原道長 遺言
新編神皇正統記 藤原道長 遺言
藤原道長 遺言
藤原道長 遺言
藤原道長 遺言

九月

時計五二二以下中全稿付

加藤天保文和文

新編神皇正統記 藤原道長 遺言

甲子博士 別教角海老 鶴得業
甲子博士 別教角海老 鶴得業
甲子博士 別教角海老 鶴得業
甲子博士 別教角海老 鶴得業

一版

善七
七
七
七

一火

七
七
七
七

一猪

七
七
七
七

七
七
七
七

長年一般地稅を取る旨の旨... 伊万里八被稅... 縣曰縣令併り

區之 中添年亨

その所... 伊万里... 縣曰縣令併り... 武列

牧山藏 二〇四
外谷藏 二〇四
下谷藏 二二六
寒川半 二〇六

日... 伊万里... 縣曰縣令併り... 武列

是心尚子物可劍免之定子と産めりてまふこと
 今まかたあま直然せしるるましまふ心か箱を
 近々八買ありはれものあり
 ちて下真狂るるまはと買てん又果班しする層
 とのまをたを渡る者いまの夜の名の免りて方
 二の代方の名買あり
 其能る物ありはし君もはりしるるおと一時斯
 する層をかくはれはれ所撰万筆書の流れせし類
 外側箱の古書物の書入の西の如きもの
 取鼻の書い具しし西の如きもの
 後集くくくもはりし是と教金も無く珍蔵

一が人物 吊

そのか多し

私後右高貴回来今仕来はる

月
 未
 日

月
 日

月
 日

因言京師の所六地蔵火日ノ石像アリ或町ノ大日如來
 一夜路隔りたる所へ夜行して玉ヒシトテ諸人奇異ノ思ヲ
 成し早速在り出たり其大日如來連来レトノリニテ

是より尚子初句剣免之定子と産めりしを子と云ふこと
 全まかなふも直然せしは物と云ふに類せしむるも
 近々八買ありは物と云ふに類せしむるも
 是より尚子初句剣免之定子と産めりしを子と云ふこと
 全まかなふも直然せしは物と云ふに類せしむるも
 近々八買ありは物と云ふに類せしむるも
 是より尚子初句剣免之定子と産めりしを子と云ふこと
 全まかなふも直然せしは物と云ふに類せしむるも
 近々八買ありは物と云ふに類せしむるも

一か人物 品

私依右高貴田来仕其處
 法義と云日傍起昌は新有仕
 事なる尚又今段右出格別
 吟味仕中起事なる上は何事
 片お智済用向海山と信事
 並り始海事那上以上

月日

野田屋

七

為一各切代辨何様事
 手書ありは

未

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

夫
 十
 百
 千
 万

是レハ為子初句劍鬼ノ定子ニ産メリテ子ニ至レリ
 合ニサシク直然セリ
 此ノ箱ニ入リテ
 其ノ買見ルイハハ
 又其箱ニ入リテ
 其ノ買見ルイハハ
 又其箱ニ入リテ

三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三
三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三	三十三

○京都新開集第九
 三皇仙房拓日同所三種ノ森トニアリ夫此地ノ木々我ハハ思
 茂リ世人皆云天初ノ極ナリト採拓ノ人夫此地ノ木々我ハハ思
 火災ニ病氣等々類ヘキ出来タリト云ヒフヲ諸人後諸人得テ
 掛ノ官員猶務ニ説ク干許榎村權大參事官員此ニ答テ曰
 此ノ森可守者ニシテ
 天朝ノ天子御愛時ノ御意ニ意ヲ名解ヤ況

皇朝ノ世ノ為ニ同拓集アルニ其妨ニ成ラズ速ニ以拂ヒ定極テ
 諸人ニ説ク解シトは是掛ノ官員致ク奉シ志力ニ成未嘗指ノ
 和狸蟻蝎殺シリケ箱元セニヤ或ハ焚クハホシ影形モテ消
 滅シ盡果テ良田ハナリケリケリケリケリモ正道ニ逢テハ
 雪霜ノ大陽ニ逢ルハ妙妙皆消矣テ中宗ルアアハハス御威徳
 盛ナリ毎々ハキリ共ナリ
 因ニ百京ノ所ニハ地蔵火日ノ石像アリ或町ノ火日如未
 一夜路隔リタリ所ノ穴行ニ至ヒシトテ諸人奇異ノ思ヲ
 成ニ早達シ存ク出タリ所其大日如來尊連連トノイニ

白河三申後サレハニハ方今般走人取締、中央三安置ノ
早急鎮護アル可キニ夜中、遊行北河、心得ハナリ
白水セヨトラ、鎮護ヲ以テサレシハ、石像ハ忽チニ
碎ケタリ、抄、早役人ニ命シテ、白錦ニ地蔵、雷、雨、
大、腹走、人、短、杖、白、シ、タ、ル、ニ、何、ノ、名、モ、ナ、ク、身、体、ニ、成、テ、
還、散、セ、リ、地、蔵、ノ、所、ニ、テ、也、若、シ、カ、レ、バ、大、日、圓、林、ニ、
申、分、リ、可、キ、ト、其、後、中、中、偶、像、ノ、形、行、止、ニ、テ、リ、丈、
袖、ハ、正、直、ノ、頂、ヲ、帶、ス、正、道、ニ、又、待、リ、テ、ハ、邪、佛、無、神、
事、ト、ナ、リ、ス、ト、又、タ、リ、テ、行、ク、鬼、神、モ、之、ヲ、侮、ル、ト、ハ、
此、ノ、謂、ナ、リ、然、ル、ニ、亦、佛、早、丁、ノ、地、蔵、大、日、石、像、ニ、亦、
祈、禱、セ、テ、成、リ、有、リ、モ、セ、又、入、鏡、金、ヲ、出、シ、テ、其、堂、ヲ、修、復、
シ、之、程、ニ、物、ヲ、供、一、或、ハ、奉、ル、ト、早、丁、中、出、鏡、事、
ニ、テ、疾、業、人、時、日、ヲ、費、ス、ル、者、ハ、愚、林、ノ、至、リ、ト、云、フ、

白河橋。交布下、梅、屋、所、ニ、母、智、光、考、ル、首、有、テ、アリ、シ、ト、イ、フ、ノ、項、ス、
ヨリ、唱、へ、引、大、ケ、首、ヨリ、上、ノ、病、此、首、塚、ニ、テ、願、セ、公、池、

今ト云イナレトテ日夜朝暮参詣シテ人衆増ナリ近此益盛ニナリ
堂前ヲ建シテ佛會ノ縁記ナリテ出テ、
セシニ先月、京都、御、願、ヨリ、其、甲、ノ、合、ニ、テ、有、テ、是、ト、被、毀、セ、ラ、レ、
建、物、諸、道、目、等、ノ、貴、佛、ト、其、不、料、ハ、其、組、ト、是、夜、費、用、
ト、ス、ヘ、テ、御、願、圖、ナ、リ、テ、跡、ニ、高、札、ヲ、建、ラ、シ、タ、リ、其、
明、治、支、秀、ハ、主、人、ヲ、殺、セ、シ、ト、在、罪、入、也、其、時、
ニ、テ、
誰、感、ス、ル、ト、以、テ、外、ノ、事、ニ、修、各、被、建、ニ、建、モ、破、却、明、ニ、
大、義、ヲ、示、シ、諸、人、ノ、惑、ヲ、解、リ、モ、ナ、リ、
右、ハ、忠、孝、大、節、ヲ、示、シ、且、フ、有、難、幸、御、極、意、ニ、テ、修、ク、感、戴、ス、ル、
也、不、忘、弟、弟、ノ、末、代、ニ、テ、其、罪、過、通、難、ニ、道、理、ヲ、思、フ、ヘ、シ、
也、
白河城。北ニテアリテ、雁、島、ト、名、ト、三、行、アリ、今、般、其、地、ヲ、築、地、ニ、
婦、ノ、竊、ニ、愛、敬、ス、ル、形、ト、稱、ト、テ、堀、出、セ、リ、其、基、造、相、巧、ニ、
シ、テ、會、堂、ニ、柱、百、五、外、物、ト、見、ハ、タ、リ、因、テ、大、日、圓、林、ノ、事、ヲ、立、日、ヲ、
考、ル、ニ、彼、邊、ハ、宮、女、ノ、住、所、ニ、テ、モ、有、シ、テ、ウ、カ、ハ、ん、湯、屋、ナ、リ、

孫重シテノ皇太子ノ歳ニ實スルニ皇太子ノ皇太子ニナラスヤ其ノ
名ノ傳ハルハルハ年トシテナク

先達テ古者皇太子ノ東宮ノ侍出見物トシテ或夜男競
女競ニ向テ云ク我年從來貴ニ御城ト上ニ高ノ止リ送テ人ニ
仰カレテ三日ノ皇子ニ送テ金ノ競ニト若妻カシテ居ル身ノ
時勢カレハ深恨ニシテ吾妻ノ後引ツラレ巷ニ飛テ脚ヲ内ニ
雁金ニヤハ滅金ニヤト下流ニ送テ誰カセテ此頃岸ケハ
此上ニ海外ノ万里ニ遣ラレル由何トシテ喜カロクソ女競
之ヲ則キシクト送テ出テ我固ノ人下テニハルハハカモト事
志トテ外國ノ人送テ賜物ニテカテハトル金モ及バズテ義理
モ操モ云ツ者カコソ憂ミシメニ逢リイソシニハルハ心ヲ定メ
此深田川ノ毎々校テ清キ水言シテ流シテセウト思フテ
男競ヤ暫モ昔ヨリ拾ニ申ニハリヤ下流ニテ其工丈ハ
宜シクテモ右様有業ニセハ此上被キ評判ニ交ケ
アリヤ真鍮 特ト云ハルデアラフ

京都新聞第九節

國成衰々入材者無甚入材成否初時り教育ニテリ海外諸國

子以算又其人日ニ文冊ニ進ニ其四月ニ官四強ヲ致ス其成
御一新始當府下六十四ノ小學校ヲ建テ官定事ヲ以テ聊其實ヲ助テ下
雖多シハ富民教ハルハ助テ下ニ得テ成ニトシテ可符ノ良也ヲ以テ其者
出シ此之富家ニテ出シテ以テ容易ニ成功ヲ遂ク其後大政官ニシ
學ヲ取建テ命アリテ小學校ニ普通ノ學業然ル者ハ中ニハニ撰入シテ
門ノ學ヲ修セシムル期アリ然ニニ華族士族卒及ニ社寺等ニ或ハ是迄
當府ノ貧民屬タラサルヲ以テ小學校ノ事ニ關係セシテ其業ヲ進
進ノ字法ナク其和意識量ヲ進テ格様ナク動モテハ洲ノ為ニ小學校
救テ修業スルヲ婦人直ニ中ニ入レテ其實ニ未タ小學校普通學子ノ半
ニ到ラス帝其業ノ不進ヲ云フテ學校法則ニ障礙スル修業ハ何為
十九ヤ小ニ以テ其身ヲ修其家ヲ齊今日日用ノ衛生計リ日申權ヲ好
尊大ハ以テ官達ニ從事ニ富強ノ

御其基礎ヲ裨益ニ四ヲ治メ天下ヲ平ニシタマフ御用ニ庶セシ為ナリ
然ルニ庶人ト同學スルヲ嫌ヒ自ラ尊天ニ居テ日用實地ニ勤

凡其弊之在下情不通時勢迂闊ニテ終身民間何ノ疾苦也
 葉ノ不才ナリ景況々々不和官ニ從事也其為ニ下情迂闊ニテ
 時勢ニ疾レ登新國家ニ裨益也ニヤ亦在ルモ亦自ラ修事ヲ不和
 然ニ其謀ヲ善食失亡生活ノ道ヲ失リ列ラニ甚キハ
 王政ノ御趣意ヲ諱リ認浮説ニ惑亂其身ヲ諱リ世ノ妨害ヲ
 成スモノナリニモアラス是皆教育ニ其方ヲ得ザルニヨル患ニテ愚歎
 以ルキ至リナリ今や華族皆都府百官皆屬スルハ一人モ
 御趣意ヲ諱リ其身ヲ疾レ事ナリ速ニ自來ノ弊習ヲ去リ修養家
 日用ノ事ヲ始リ一ノ下ノ事情毎身道ニ世界ノ時勢ヲ洞觀シ
 實地通譯國語大用ニ供スルルル業勉勵コレナクテハ不相依
 當身ニ於テモ入民
 漸以侵王ノ
 御趣意國語ヲ強シ
 御大業ノ上ナリ奉シ是ヲ勸奨セザレバ不得因茲自今
 市中住居各地ニ殘六十六組ノ區分ニ編入シ學童計開費
 費手不諭齊シク各組ノ小學校ニ共ツ普通學子ヲ修業ニ
 其ノ三應シ中學子ニ校擢シ爾進テ其進ノ費ニ加ハ忍シノ材
 教育ノ道ヲ疾キ盛也ノ

御趣意ノ名ヲ貫徹シ文明富強敢テ海外諸國ニ讓ルルナキヲ
 冀メ也銘之
 御趣意ヲ體認シ勉勵所要タルニ仍テ小學校費用出金ノ
 儀別紙ノ通り候事
 右々通山城國中華族士族平民等ニ無常ニ相違ハル
 者也
 辛未八月
 京都府

一 小學校敷別費金
 一 有祿ノ面ニ其祿高百分ノ一出金ノ事
 但シ小學校敷別費トス取祿一石代金五兩ノ
 當リト以當年限リ出金ノ事
 一 祿ノ有無ニ不拍一抄ノ毎ニ半季壹分宛
 但シ永年修繕其外費用トシテ市中一抄宛電別半
 季ノ毎ニ出金ノ法ニ隨フ取永年半季ノ毎ニ出金ノ事
 一 出金ノ其組ノ小學校ニ納メ學童ハ其組ノ小學校ニ修業ノ
 定則ニ候得共願ノ上ハ他組ノ小學校ニ修業ノ義モ不苦
 候因テ出金ノ當否工相納メ當否ヨリ各所小學校ニ齊ク

心臓を冷やし、血を流す。暑熱を去る。心臓を冷やし、血を流す。暑熱を去る。心臓を冷やし、血を流す。暑熱を去る。

花材権大急本殿

新井建吉

暑病預防法

一 霍乱の預防法 吐瀉の者氣の強弱... 其の各体種を辨し... 吐瀉の者氣の強弱... 其の各体種を辨し... 吐瀉の者氣の強弱... 其の各体種を辨し...

一 暑病の預防法 暑熱を去る。心臓を冷やし、血を流す。暑熱を去る。心臓を冷やし、血を流す。暑熱を去る。心臓を冷やし、血を流す。暑熱を去る。心臓を冷やし、血を流す。

一、... 馬車... 往... 今... 末...

一九... 馬車... 往... 今... 末...

一九... 馬車... 往... 今... 末...

一九... 馬車... 往... 今... 末...

一九... 馬車... 往... 今... 末...

一九... 馬車... 往... 今... 末...

一九... 馬車... 往... 今... 末...

一九... 馬車... 往... 今... 末...

一九... 馬車... 往... 今... 末...

横濱番頭 〆

〆
二七
〆

右と聞下候

一田中六内史 西元 文部大臣 〆
〆

西元 〆

〆

〆

〆

〆

五枝 梨子四のあふ七枝

梨子 三子二六七〇八

不口并二声

熟汁 少言七子九〇八

各々

百五八村

○道徳園

一 高知郡 松原 八枝并各 百五八村

一 高知郡 三子 四枝并各 百五八村

一 高知郡 三子 四枝并各 百五八村

一 高知郡 三子 四枝并各 百五八村

一 高知郡 三子 四枝并各 百五八村

一 高知郡 三子 四枝并各 百五八村

一 高知郡 三子 四枝并各 百五八村

一 高知郡 三子 四枝并各 百五八村

一 高野山 武部 山内村

一 高野山 武部 山内村

一 高野山 武部 山内村

一 高野山 武部 山内村

一 高野山 武部 山内村

一 高野山 武部 山内村

竹佐 七格四村

高野山 武部 山内村

○ 横濱

横濱の町は、昔の町に比べて、今も昔も、

横濱の町は、昔の町に比べて、今も昔も、

横濱の町は、昔の町に比べて、今も昔も、

横濱の町は、昔の町に比べて、今も昔も、

横濱の町は、昔の町に比べて、今も昔も、

横濱の町は、昔の町に比べて、今も昔も、

横濱の町は、昔の町に比べて、今も昔も、

横濱の町は、昔の町に比べて、今も昔も、

母屋属の別

一 進之海布告諭 此身より國守りて身好要
 一 四長同一致 理難知身身尊重して年長侮慢又ハ
 一 縣廢大ニ教化ノ布キテ盛ニ四郡ニテテテテテ
 一 予者屬ノ輩別ニテ念載ニ未クハノ者ハ速ニ
 一 入字列精々ハ才學アリテ文明ニ進歩セハ小ナリハ
 一 賢良ヲ得大ナル顯官ニ補入勅差入任モ固ヨリ
 一 明成ニヨラス意措カテ酒殺カニテ野蠻ノ陋習
 一 州統セサルハ典刑アリテ教スヘカラス
 一 八區中並高須モ毎區觸頭一人有區外ノ差教カ
 一 管色ニ籍ヲ兼知ニ整メテ上ニテ布キ惡キ除キ
 一 母屋属凡百人ニ幹事一人アリ觸頭二人テ專テ
 一 家長ヲ統スル
 一 母屋属中ノ進降子戸ヲ一組ニシテ世々親愛シテ

○ 田 櫻 樹

田 櫻 樹 記

櫻 樹 記 文 卷 之 一

田 櫻 樹 記 卷 之 一

○ 千 年 四 月 六 日

○ 三 月 燕 州 節 安 濟 院 記

○ 中 國 地 理 考 略 卷 之 一

田 櫻 樹 記 卷 之 一 櫻 樹 記 文 卷 之 一

田 櫻 樹 記 卷 之 一 櫻 樹 記 文 卷 之 一

田 櫻 樹 記 卷 之 一

田 櫻 樹 記 卷 之 一

田 櫻 樹 記 卷 之 一

田 櫻 樹 記 卷 之 一

○ 田 櫻 樹 記 卷 之 一

田 櫻 樹 記 卷 之 一

○廿九日 三入地金銀前中一美学校年

○廿九日 三入地金銀前中一美学校年

○廿九日 三入地金銀前中一美学校年

西条田
年
有
皆
之
小
左
其
其

全
九十九
其
其

○十月十五日ヨリ廿日ノ間農民盛技
知多郡大井澤

倣々本忠臣蔵

木下澤村合戦

若^三 ^九 ^十 ^{十一} ^{十二} ^{十三} ^{十四} ^{十五} ^{十六} ^{十七} ^{十八} ^{十九} ^{二十} ^{廿一} ^{廿二} ^{廿三} ^{廿四} ^{廿五} ^{廿六} ^{廿七} ^{廿八} ^{廿九} ^{三十}

改巻

三弥

金治

信

星

大房

兵

倉

手拭銀水色模様の白上り



小島屋
雪
小島

第一區
二百五十六番

○小島屋長者町小島屋小友蔭深披露手拭白上り

子編萬載無言

A decorative box with a purple top and yellow background, containing a family tree diagram. The diagram consists of several yellow, cloud-like shapes connected by lines, representing generations. Names and dates are written in black ink within these shapes. A vertical purple label on the left side of the box reads '大倉屋' (Ookura-ya). The names include '細' (Hosone), '伴' (Tomonari), '吉' (Yoshi), and '大' (Oo). Dates like '十一年' (Jūichū-nen) and '四年' (Yūnen) are also present.

禁賣買

手拭銀水色模白上り



○十月上旬助高屋高助披露手拭上色





○義校大意

今段義校と建る。主意ハ人ノ學子問及勤め。各々進價の才と發。智識と増さ。わきの主意あり。學子問と之ハ六ヶ數字と讀。理と處とつゝとれと。心得るがめさハ。大ひる。佛事なり。學者ハ古今の事蹟及知り。當。能く辨へ。め。隨つて世の中。真の學子者ふれ。方今書とま。後め。大。洲ハ萬國の風土人情とも。飛ぶ。有難。御世ハ運。無。外國人と。唐人と呼び。天。天。心。豈口情。

何れに依りや。年等役とも勤む程の者ハ。上の
 令氏奉りて下へ傳り偷をもそのふれハ。昔前乃
 字問として。時勢とも能く辨。即改
 体とも勤味。奉り傳らぬるゆあり。そ
 や其用の字問もた。商人ハ彼萬國の諸法を以て
 として己ハ諸法の一物として。彼れ萬里の彼
 濟と凌り来りて商人とをれハ我れは萬里の
 萬里として彼國よきなり。高しと云ふは
 其理なり。彼れ全國の力と令せて来れハ
 悉もその全國の力と以て。愈せき。極りて
 是商社の役ありゆんんあり。されど令字と
 知らば翻譯書とも得得と。彼國の
 情實とも其のゆあり。其のゆあり。其のゆあり。

べきや。俗て知少なり。文字と後習り人々大
 智と以て身と護り。度々其界の用とを以て
 かんとの。主意とも鳥と令渡可致や
 辛未 十月
 義校

○東京行常備兵と文通。中 晴三
 陸軍省の命令を以て元柳澤 上郎と一方法と
 あり。

新河之合修改山河記

元新河改所又合山河記

改 新河記

元新河改所 新河記

改 新河記

元新河改所 新河記

改 新河記

元新河改所 新河記

元新河改所 新河記

元新河改所 新河記

改 新河記

元新河改所 新河記

改 新河記

元新河改所 新河記

改 新河記

元新河改所 新河記

元新河改所 新河記

改 大成書

小坂并八ノ

元竹屋九 大坂書

神宮寺

皇極堂

元竹屋九 大坂書

傳馬所

林坊

元竹屋九 大坂書

改 百屋所

牧新子

元竹屋九 大坂書

富山所

元竹屋九 大坂書

改 羽城所

皇極堂

元竹屋九 大坂書

改 市場所

皇極堂

元竹屋九 大坂書

改 宮内所

皇極堂

一區長
外八區大五兼
五回書
寄名所
一

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

改
大德寺

信
地并八

无神
中

神

皇
位

无修
所

博
高

王
集

林
葉

无竹
大

伯
野

王
集

牧
新

无
富

富
山

无
利

利
城

王
集

无
市

市
場

王
集

王
集

无
那

那
人

改
官

王
集

區
長
王
集

幹
事
將
野
兵
官

書記
大
津
建
六

戶
長
兼
名
本
長
官

日
木
野
朝
橋
長
官

日
小
貝
德
長
官

副
戶
長
白
馬
谷
長
官

日
白
馬
谷
長
官

日
白
馬
谷
長
官

日
白
馬
谷
長
官

日
白
馬
谷
長
官

日
白
馬
谷
長
官

日
白
馬
谷
長
官

...
...
...
...
...

...

元

...

六

...

...

二 悔 对 友 志 真 和 编

大年	王政一新	文彦	奎嘉	正一	一曝	正一	曝
大誓一身	新	新	新	正一	曝	正一	曝
文即其化	新	新	正一	曝	正一	曝	曝
分限大家	新	新	正一	曝	正一	曝	曝
枝液制枝	新	新	正一	曝	正一	曝	曝
改革白粥	新	新	正一	曝	正一	曝	曝
女学校	新	新	正一	曝	正一	曝	曝
女格好	新	新	正一	曝	正一	曝	曝
柳将舞足	新	新	正一	曝	正一	曝	曝
御内相足	新	新	正一	曝	正一	曝	曝
眼窗之喜	新	新	正一	曝	正一	曝	曝
山若春之徒	新	新	正一	曝	正一	曝	曝
气集	新	新	正一	曝	正一	曝	曝
归晨之耕	新	新	正一	曝	正一	曝	曝
小能之再行	新	新	正一	曝	正一	曝	曝



一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

北堂古刻

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一掃掃人言... 現令... 丸とあり... 高天原の...

今般獲... 此後... 瑞方... 中... 一...

今般獲取進上之文由限為
此原亦心少あり無誤也
端方より有自之文是子少
世居者より有自の指
うりあり

位從名世居方より有自の指

養物殿之文奉老親を以て
道徳の心を養ふに
後世に傳へるべき

一階級人言の世居と居上同言の世居

現令言世居言世居
此札とあり

養物殿の世と居上とあり
居上ありの言とあり

とあり

右ハ世居言の世居とあり
世居指言あり

一階級及非階級七由右者
一互を付合言あり
即此言を付合言あり
今言を付合言あり

明 摩 霜 百 神 斗 法 研

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

寺
法
司

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]

今般獲取海上之文為限
於原亦心少之故
此後
山
山
山

青日新圖

一古板未嘗自本
 價改定和雖不若氏道持古類
 以分女以定序亦或隨其功而
 大知多事初任其長也後以
 中氏氏之志也
 大考考考考 三千人新官
 了 山由

一四甲乙丙丁戊己庚辛壬癸
 在在在在在在在在在在在在
 一二三四五五六七八九十
 十位之也也也也也也也也也也
 五五五五五五五五五五五五
 月月月月月月月月月月月月

生在中也
 上平也

二種日新
 五平板

今日新
 本八卷

青日新圖

今般獲取漢上之文為限若

[Faint handwritten text on a slip of paper, possibly bleed-through or a separate note.]

第五十九區

戸山

東京府貫屬華族
實父東京府貫屬華族
從二位德川麿賴長男

德川家達

辛未年九歲

明治三戊辰年十月八日叙從三位

慶應二丙寅年十二月三日叙正二位

被任權大納言引續將軍

宜下右近衛大將同三卯年九月廿一日

被任右大臣右近衛大將如左隨而兵杖

斗車 宣旨頂戴同年十月廿四日

將軍職辭退同年十二月十一日將軍職御免

先代 德川慶喜

同 三拾五歲

先代 德川家定

天璋院

同 三拾六歲

近衛右大臣忠煥養女寶島津中將輝彬長女

一徐英大臣志香卷女實奏出川種中尚書又其

先代

德川慶喜

美

賀

三十七歳

先三代

德川家定實母

本寿院

同六十六歳

先五代

德川家茂實母

實成院

同五十一歳

合男二人
女四人

右之通相違無之候也

享未
十月

德川家達



○享未十月下旬傳寫各國公使ロトを翰
化我 天皇陛下即位以來和親之各國
未之聘尚ノ禮ヲ修ナルヲ以テ右大臣岩
倉具視ヲ特命全權大使トシ參議亦戶
孝允大藏令大久保利通二部大輔伊藤
博文不務少輔山口尚方ヲ特命全權副
使トシ修盟ノ各國ニ派出ニ聘尚ノ禮修
益兩國親好ノ情誼ヲ厚クセテ下欲ス
然テ貴國下取結ヒタル條約改正之期限
近キニ在リ以テ右大臣ノ派出ノ使
我政府ノ目的期申スル旨ヲ貴國政府ニ

允當

陳述ニテ其考案シクハントス抑我府ノ
目的期望スル至昔ハ各國交際詔萬ニ
永世保續ヒシメントスルニ在リ而テ之ヲ保
續ヒシメントスルハ固在之國ニ行ハル諸
方法ヲ則リ内地ノ改革ヲ盡シテ同一致
ニ歸セシメザルベカラズ之ヲ同一致ニ歸セ
トスル我政府強心ヲ披陳ニ締盟各國
政府ノ考案ヲ諮詢シテ其方法ヲ實地試
験習テ予セシメ適宜允當ナルヲ採テ之ヲ我
國ニ舉行スル基礎ヲ圖ニトス故ニ我大使
帰國之後其實踐目撃スル処下締

盟各國政府ノ考案スル処トシテ審考リシ
允當條約改定之議ニ及ビントスサレハ
其考案スルニ至ルノ年限ハ已シ得サ
ルヲ請求シテ又之ヲ締盟各國政府ニ要ヒ
サルヲ得ス此今般大使ノ派出スル大旨ナ
リ閣下能世意ヲ允諾シ貴國政府ニ通
報ニ懇切之周旋ヲ望ミ候數大使一行
今更回曆之順次并案航日限ハ追テ可
申進取右 奇嵩
右ノ日大使ヲ始陸程早人程之世入用四
十兩若クハ倍ニシテ八千五金ト見積上云

猶若名ハ追テ可申上其内大臣文部
大臣田中不二磨天子ノ思念以テ思
兩人留之予ニモサレ後事

松ノ清其庶幾子里少島秀之磨^敬各任
送友人ハ語之^之裁分ラ^之是^之テ各國
諸役均ラ質問^ニテ^テ帰朝ノ後之^ラ設^テ施^ス
スルノ見込^ス又^ニ此使帰朝セハ大改革
アルハ

石岡修ヲスル而已

幸未十月口口口口口口石口口口割合
華族ハ^ハ之^ハ通^ハ作^ハ後^ハ即^ハ所^ハ者^ハ不^ハ下^ハ

朕惟フニ字内列國開化富强之稱アル者皆其國
民勤勉之カニ由ラザシ而テ國民ノ能ク智ヲ開キ
オシ研キ勤勉ノカラ致ス者ハ固リ其國民タル
本分ヲ盡スモノナリ今我國之舊制ヲ更革シテノ
列國ト并馳ヒト欲ス國民一致勤勉ノカラ及ニス
非レハ何シ以之ヲ致ス^テ得^ニヤ特ニ華族ハ國民中
貴重ノ地位ニ居リ衆庶ノ屬目スル所ナレハ其履行固
リ標準トナリ一層勤勉ノカラ致シ率先シテ之ヲ
鼓舞セザルベクニヤ其責タルヤ亦重シ是今日朕
カ海等ヲ召ミ親シク朕カ期望スル所意ヲ告ル所
以ナリ夫レ勤勉ノカラ致スハ智ヲ開キオシ研シ

ヨリ外ニナシ智ヲ開キオツ研ハ眼ヲ字内開化ノ形
勢ニ著ケ有用之業ヲ修メ或ハ外国ニ留学シ実
地ノ文字ヲ講スルヨリ要ナルハナシ而シテ年壯ラ過キ
留學ナシヲ為シ難キ者ハ一度海外ニ周遊シ見聞ヲ
廣ムル亦以テ智識ヲ増益スルニ足ラス且我國女子
ノ判未立ザルヲ以テ婦女多クハ事理ヲ解セズ殊幼童
ノ成立ハ母氏ノ教導ニ関シ実ニ切緊ノ事ナレハ今
海外ニ赴クモノ妻女或ハ姉妹ヲ挈テ同行スル國ヨ
リ可ナルトニテ外國所在女教ノ素アルトモ境ヲ育
兒ノ法ヲモ知ルニ足ルベシ誠ニ能ク人々此ヲ注意シ
勸勉ノカヲ致サバ開化ノ域ニ進ミ富強ノ基隨テ

立テ列國ニ并馳スルニ難カラサルベシ汝等能ク此
意ヲ體シ各其本分ヲ盡シ以テ朕カ期望スル所ヲ
副ヘヨ

少議官 峰頂賀之ハ洋行於女ニ成タル由

○辛未十月

前文各省章程略之

各省其委任ノ事務ヲ盡シ全國ノ規模ヲ皇張
ビトス 現場ノ施設スル所ヲ能ク辨ニ將來目的
スル所ヲ能ク達セシムルニ支給スル用費ヲ

要ヒサルベカラズ若夫従前ノ租税ヲ以テ今日ノ用ニ
支給ヒト欲ス僅ニ以テ従前ノ事務ヲ舉行スル
ノ用費ヲ辦スヘキモ更ニ開國維新ノ目的ヲ達シ
列國並立ノ規模ヲ立ル何ヲ以テ能ク之ニ支給スルヲ
得ニヤ故ニ全国ノ財務ヲ改正シテ各省ノ目的ヲ達ス
務ノ能ク達セシムヘキ基礎ヲ立テサルベカラズ而シテ
全国始テ郡縣ノ体ヲ歸スルトイヘヒ百政未タ完備
ナラザルヨリ未タ其實ヲ收ムルニ至ラズ制度一トラス
稅勢均シカラス諸族ノ祿制内外ノ國債未タ其法
ヲ得ズ此レ改正スヘキ事務ノ急ニ先スヘキ者ナリ
其餘件乃チ左ノ如シ

郡縣ノ制置分合附削其宜ヲ得テ治體一致公費
改定ニ至リ全国異同ナク民政脩整ナラシムヘキ
處置ヲ施サルヘカラズ

諸族ノ秩祿ハ全国養兵ノ資ナリ積世因襲
ニテ終ニ無用費ニ帰スルニ似テ此其處置ヲ
定メ其方法ヲ設ケサルベカラズ
稅法ノ至ヒ日ク全国ノ人民各目其保護ヲ托シ
各目其國ヲ守ルヨリ貢納スル所以ナリ然ルニ従
前ノ稅法只農一科及海關僅ノ雜稅ニ過
キズ以テ全国一切ノ諸費ニ供ス大ニ公平ノ道ヲ
失ヒ同一ノ人民幸不幸ノ同シカラザルアル此宣

之ヲ改正ノ法ヲ立テサルベカラズ内外国債紙幣
 ノ交換等都テ理財ノ要務ニ係レモ各其道ヲ
 得テ上ハ廟堂ノ信ヲ徴シ下ハ人民流融ノ便ヲ得
 サレハ猶溝渠ノ開塞在スルカ如シ故ニ能ク之ヲ開
 鑿疏通スル方法ヲ確定シテ條理アラシムヘシ
 此數件最改正スヘキ事務ノ急ニ先スヘキモノナリ而
 シテ之ヲ能ク改正シ全國ノ制置税法等都テ務一テ
 ルニ至リ凡ソ何年ノ後ヲ期シ能ク幾許ノ事業ヲ
 奉クベキヤ將タ各省各事務ニ分給スル定額凡ソ
 幾許ニテ其事務亦幾許ノ實効ヲ奏シ得ヘキ此
 レ今日ヨリ籌畫等シテ豫定ノ目的ヲ立ケルベカラズ

此ニ各省有能ク此ニ注意シ各其分職ヲ奉ルノ目的
 シテ定ムルコト相互ニ照會會審議スルヲ必用ナリトスル所
 以ナレハ能ク此旨ヲ体シ其要旨ヲ速ニ上陳スヘシ
 右議問堂冊 辛未十月十八日各省長官ハ被
 相渡

○昨洛縣下揚列林四郊村々々々禱多年氏
 同一あり如ク及致於此等々々々々中月十
 之不一候ヲ起シ各林深遠地ヲ携乃林亦都
 近月村石石石石及致火川後人氣沸騰
 改ノ留不汝者ハ下候林トナリ得人救
 凡此六人子及ヒ人連中人厚放火又ハ折崩

口紀大宅村より中道に望み十月二日三子に
一子ハ出川村より川邊に一子ハ西平川に
飾野路に飾野に押入の道筋に及れ
防路に昨路に下へ侵入の改換に自同縣
より西へ改換に自同縣に及れ
止及地處尚又出川村へ七葉之分も口及
下重の自一獲解散川口縣に捕縛
味中より由る及法解りしに右等為縣下
飾野路に村より同法家出所怪我人三人也
其大暴氣に誘ひ入る角如人の即死文
るるに條に八人昨路縣に捕縛して川

海より、且方々不中人の便とて是等席りたる者
自一同村に於ける以上は條々として口縣に
引合後を右の件お筆の自同法に及れ社
也自法に及る不多数に長縣下村に改換に及れ
其高の自縣より自一獲解散に及れ
縣下村に右飾野路に誘ひ入る自同法に
其高の自縣より自一獲解散に及れ
其高の自縣より自一獲解散に及れ
其高の自縣より自一獲解散に及れ

辛未十月二十日

兵庫縣

史官中

唯今云々下縣書あるは云々下等夕生野縣

第千及動檢の身は兵号根從回縣後
託方より尋夜は改の兵より紙の以は之を
放り由りての上

辛未十月廿六日

史官岸

出石縣 卷之

○九月二十日 福山縣より由

去月二十七日より以る度書縣署下不從由風
ありては十月十日の夕年の縣廳より信名乃と面
云九月朝津河邊に位あり系給ふ所なり
村長報書ありて之衙衛に元案は
之れは二十一日に告除改りて兵更に
之指一旦返り尚百方ありては漸く煽動
暴徒等之及無條一の時方より
一決改りては隣境より信縣より
ありては先送心より計より一方
之押に五日に報急より根報候より
中述に
石名乃の身より而津大牙より接りて
地方より官より

至時之終夕ハ三百年之因美と只水の不
空、知兒母も美し如く一ノ條に徳才也
割と方ぬ海騰と至大要と此と此も
只徳尚く可直と取耳

八月五日

○前書薩列ハ今以君臣情実厚由中傳信
以公中受曲と古族年々意思君と道と三ノ
事の多しんれ云以多勿家思受曲ノ家録
大に全り多能元一阿ん十た二ト也
又之多松意思知子云可氏也船ヲ拒之意思
善んる子ヲ然し由
九月十日也道

從三位急津久光

後年功勞不少格別ニ 思食ヲ以テ多家
作付 亦受曲拾万石、内五万石の亦家録分
賜

從四位島津忠義

同姓從三位從年功勞不少格別ニ
思食ヲ以テ多家ヲ作付 亦受曲十万石ノ内
五万石の亦家録分賜
從三位急津久光
先般從三位 宣下ニ轉ニ 國許ニ條等日
關合食ヲ以テ多家ヲ作付 亦受曲拾万石
宣下ニ條等日

從四位急津忠義

同之入言に從三位

九月十四日

張五在石川成之

祖兄少弟張君之子也下三子皆在江府長小別
今五子三子與弟之長子孫也此亦世之至
也 即食之也

出也 知此項或存 各件之權與來
今身而方角則 知身而亦多也

一 市并科新獄科 昔身而科 大獄科
定出

一 縣廳 今身而科 以元法 丹諸官負

一 出也 今身而科 以元法 丹諸官負

一 漢名 元法 今身而科 以元法 丹諸官負

一 若科 今身而科 以元法 丹諸官負

一 知也 今身而科 以元法 丹諸官負

一 知也 今身而科 以元法 丹諸官負

借銀以作之本
 官自置局
 社年所好火元
 新君
 社年
 市井
 官自置局
 社年所好火元
 新君
 社年
 市井

○從前
 壬申年
 五十五友
 百歲
 壬申年
 五十五友
 百歲

又
 壬申年
 五十五友
 百歲
 壬申年
 五十五友
 百歲

先般之戶籍法改訂之案後部之案の一人の意見書
奉旨自今及後抄り申す

田來、由緒先以主一經町人今、日、夜、此、山林、業、
此、主、先、孫、之、分、一、切、之、權、也、自、日、之、始、也、此、流、土、の、
中、月、及、別、之、身、精、細、之、力、因、之、必、獲、之、也、此、等、
心、を、と、給、ふ、者、大、有、之、也、此、等、の、所、に、
世、に、家、業、の、益、を、得、る、者、亦、有、之、也、
分、高、敷、力、因、此、の、所、に、
大、改、官

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

町奉行還、之、所、純、意、の、志、に、已、年、中、度、用、一、向、
町奉行書、之、町、教、書、村、毎、に、町、下、ヶ、り、力、を、
セ、り、後、委、任、之、感、奇、此、等、郡、縣、之、に、
業、之、一、共、農、之、ノ、天、下、中、有、之、農、是、之、
勤、之、中、の、時、農、之、海、之、而、町、建、之、中、政、
之、中、與、武、家、方、之、政、權、と、成、之、の、在、田、派、
於、世、に、衣、衣、農、之、之、之、方、氏、派、派、之、臨、り、歎、
悲、仕、之、也、 朝廷、亦、不、使、之、り、の、 思、之、町、建、
之、之、之、郡、縣、之、復、之、世、に、之、故、然、之、
之、日、夜、一、之、再、内、確、張、ス、レ、也、納、之、

振るゝ多隆成へ
即ち勅云々

七子飲赤の夏今般高の廢縣ニシテ

在亦在京も亦一様ニ亦一竹亦同云

亦在京トシテ 作せし事入云ル事

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

亦在京トシテ 亦成内ト集飯仁

十三郡百餘人
山縣郡古田村

君之若以御臨此の道列方つは誠りるる
此れは其の多き文之を以て此れ才多

未だ月十日の事

本文内漢字を多し従て古ノ一字取

〇三月

年岩

所三

内

中

年

休也

目唐

守也

正十師至所大改ノ由ニテ同月廿九日ニ至り評議定ム

方今文明開化の一助中である
可きも此ハ翻譯書小如くもの
多し此度諸種の翻譯書也

藤間於
藤間於
藤間於

表十一日

西暦

依下

三郡百姓
山縣郡古田村

君之若以柳陰松の並列方々を辨り居於
此の如くは乃文之其限も此才也

未月十日の事

本文内漢字の多し終て古ノ一字取

○三月

年名

所三

内

中

集

休也

目唐

正

方今文明開化の一助也
可きも此ハ翻譯書小如くもの
集め聊の見料を受け
貸本といはれ其ハ四方の君子
普く電覽茂乞ふ

未十一月

翻譯書
新聞紙 貸本所 日新堂

西曆町通伊勢町西

下

十二郡百餘里
山縣郡有田村

昔々物類多あり

資本より集入る日女の女子

業の具材を致す

たゞ其意懐許の諸事あり

たゞ其意懐許の諸事あり

石

石

石

○三月廿五日 第六遍 直可佐母屋十三年

年岩喜十位如何の事細く今存同

所三ヶ所より以て年岩喜十位復三ヶ所

内一ヶ所拂ひせしめは差出りともし一ヶ所

中一ヶ所後三ヶ所改は法成る所番嚴

年岩喜十位より山一ヶ所と後

木中日林正十中へ順ち成りて本街一

目度り小巻才に引移り既今日整役

時記

正十師正所大坂一由一ヶ所同月廿九日

元授の御名に好系多しとて其式二百
金^監の御名上りの御名、御名あり
予元百人他壹組に石合の御名
際上の御名に後御名たり物と御名上
し及、昔くえ合あり下

御名、御名、御名、御名

大極上御名

御名、御名

御名、御名、御名、御名

御名、御名

御名、御名

御名、御名

御名、御名

御名、御名

御名、御名、御名、御名

精々人撰可致事
無餘儀朱引外(出)竹節ハ必馬を口附

金... 元百人... 縣... 及... 皆... 見... 合... 亦... 成... 下

遊學... 11月... 1日

大極上... 類

佛... 珠... 三... 味... 佛... 德... 廣... 文... 向

小... 一... 一

右... 實... 與... 結... 束... 皆... 佛... 珠... 佛... 德... 廣... 文... 向... 出... 世... 名... 考... 之... 中... 心... 也... 聖... 賢... 之... 所... 共... 賞... 也... 夫... 佛... 德... 廣... 文... 向... 出... 世... 名... 考... 之... 中... 心... 也... 聖... 賢... 之... 所... 共... 賞... 也

未... 土... 月

各... 處... 亦... 有... 佛... 德... 廣... 文... 向

佛... 德... 廣... 文... 向

現... 金... 大... 安... 賣... 也... 是... 分... 之... 一... 也... 佛... 德... 廣... 文... 向

更ものり也れ徐じゆ行ぎやう可か致ち事じ
石いし之の通つう布ふ令しやう了りやうのり也れ
辛しん未み青せい

大阪府

馬車運輸之道程

高麗橋より居留地迄

但高麗橋筋西へ筋違橋相渡り南江
戸堀濱側西へ西北橋筋より土堂下東之
辻南へ兩國所西へ新大橋相渡り居留地
高麗橋より字片町迄
但高麗橋東詰北へ八軒家通東へ京
橋相渡り片町

天満源八町より天王寺合邦之辻迄

但源八町南へ天満橋南詰東へ御城
番場北入口南へ上上本町通天王寺村
行當り西へ天王寺筋迄右筋南へ西門
前西へ合邦之辻
堺筋

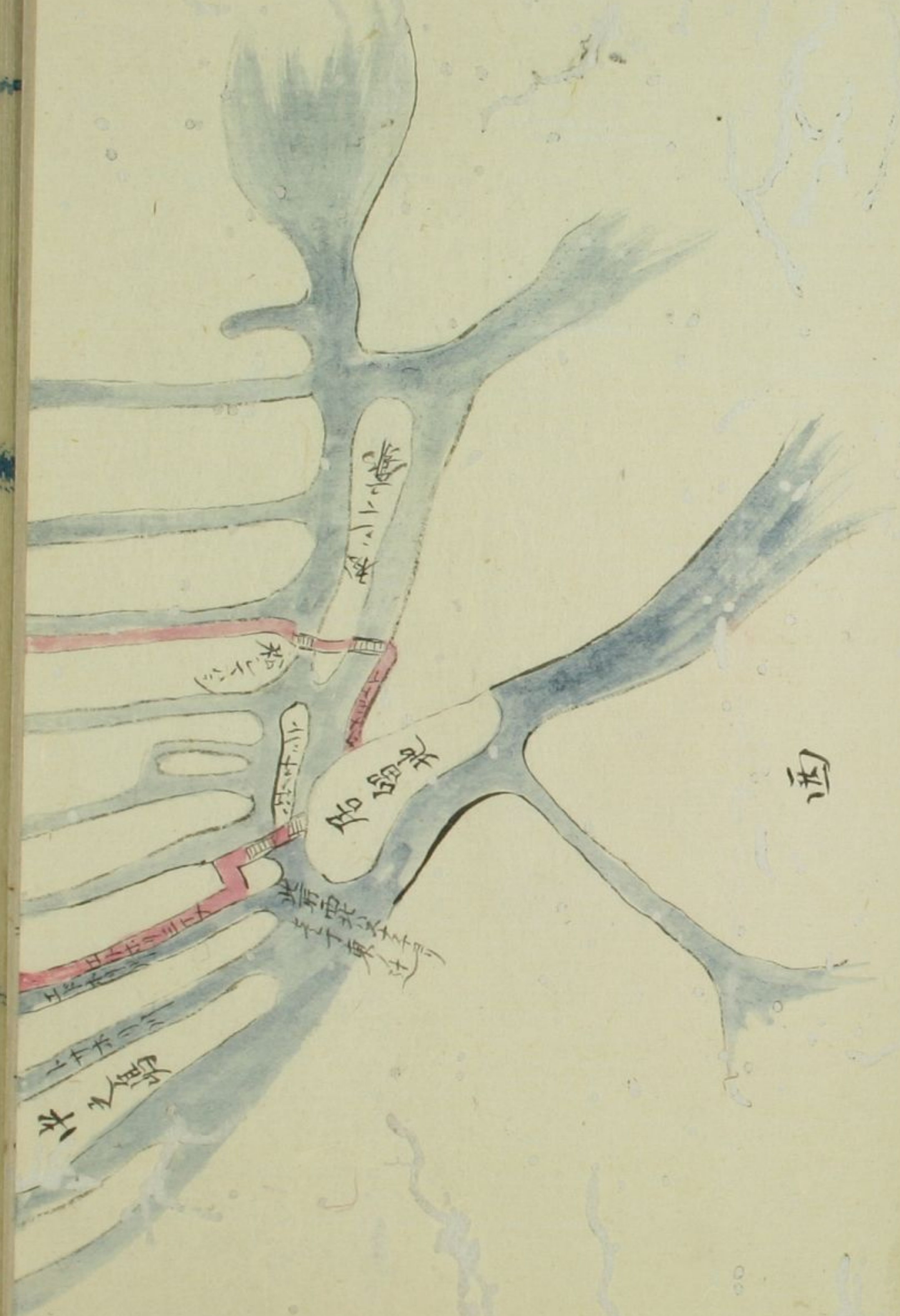
但高麗橋筋より南へ住吉街道

居留地より安堂寺橋筋迄

但梅本町南へ松嶋郭通抜松嶋橋東
詰南へ長堀川北側東へ上敷橋東詰
北へ安堂寺橋筋

安堂寺橋筋

但西横堀より東へ二軒茶屋迄

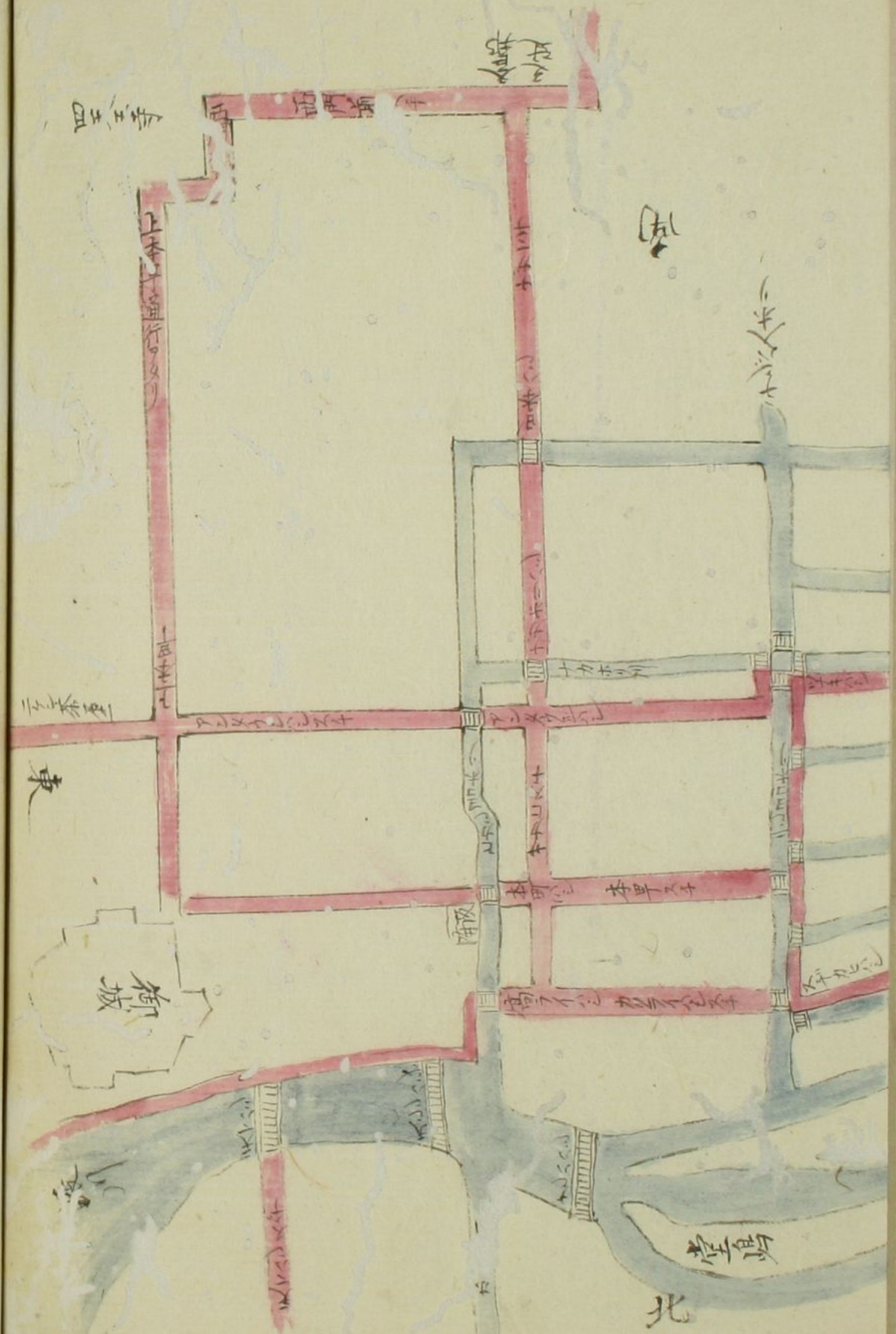
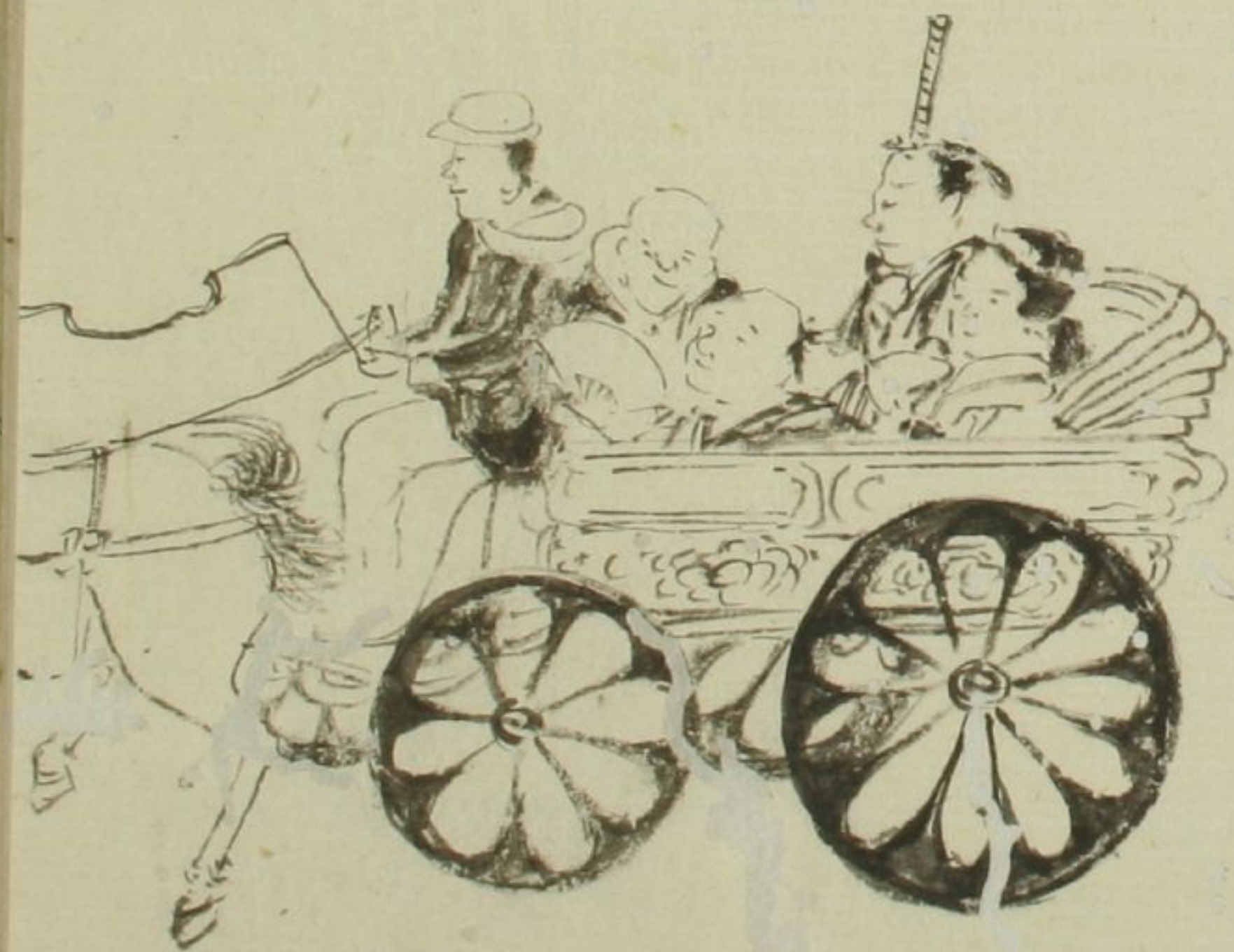


本町通
 但西横堀より東一御城迄
 高麗橋より本町橋迄東側濱通筋迄
 橋西詰濱通南一長堀川迄
 石之通布令すりよのや
 辛未
 青
 大坂府

アを外の免符の如く
 内を免符の如く
 内を免符の如く

一 佐吉 近 愛 谷 行 道
 雨 去 入 換
 幸 甚 幸 甚 幸 甚 幸 甚

今 殺 奉 祭
 實 許 免 符 馬 車 免 符 兼 使 者 免 符 兼 使 者
 免 符 兼 使 者 免 符 兼 使 者 免 符 兼 使 者



馬車

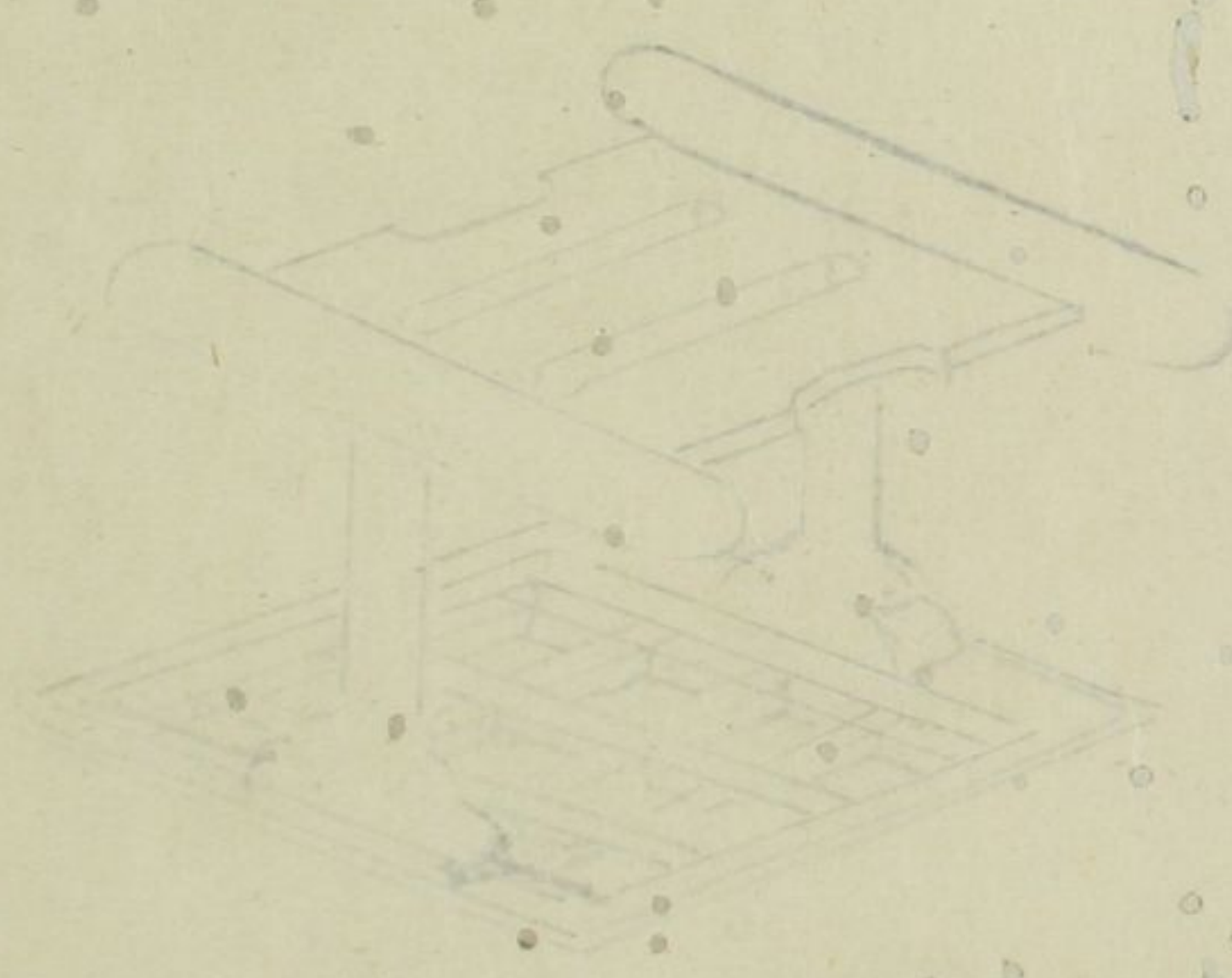
戎

橋水

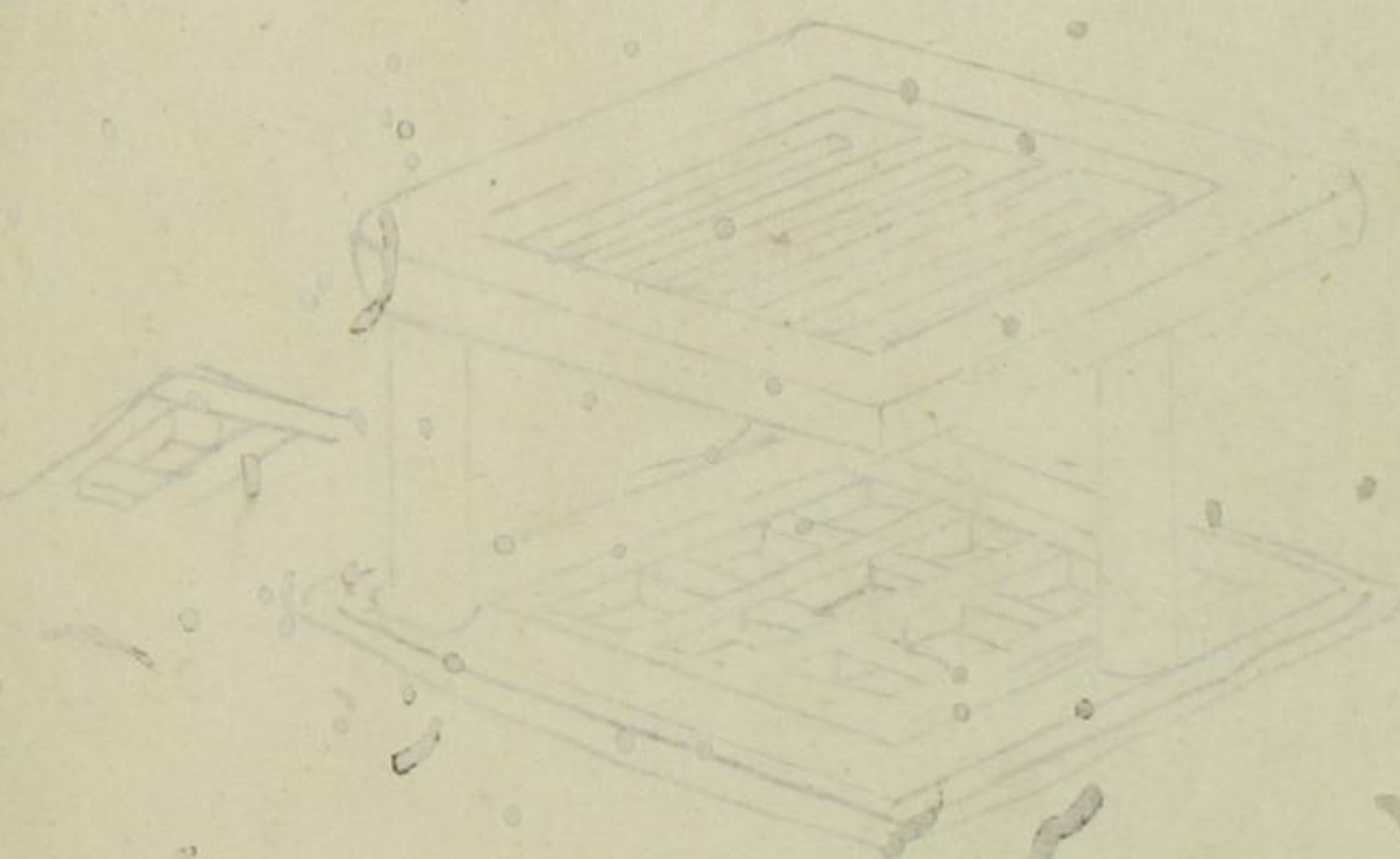
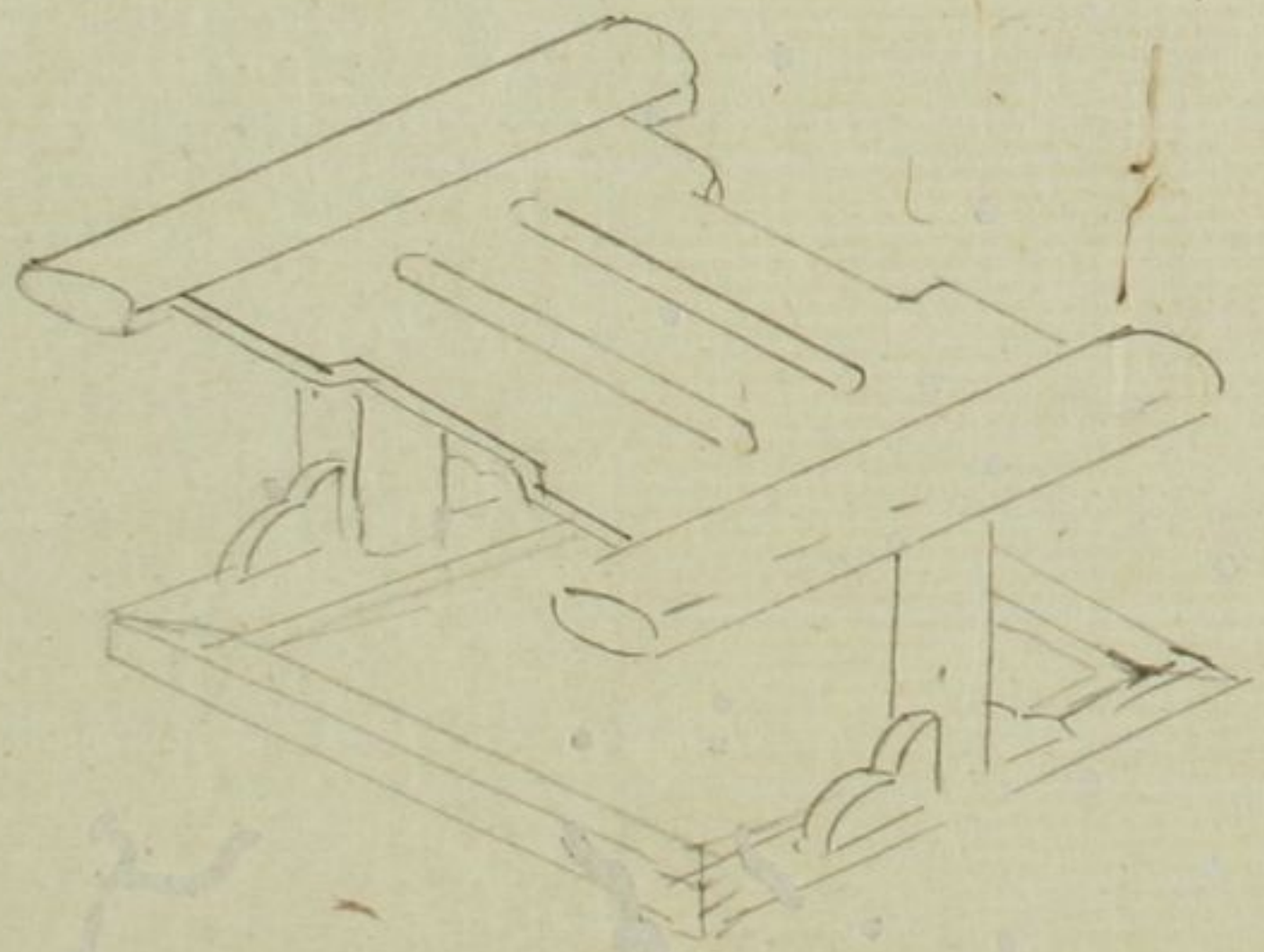
馬車會所



此乃貨銀之印者別有... 戎橋水... 馬車會所... 一切重器... 戎橋水... 馬車會所... 一切重器...

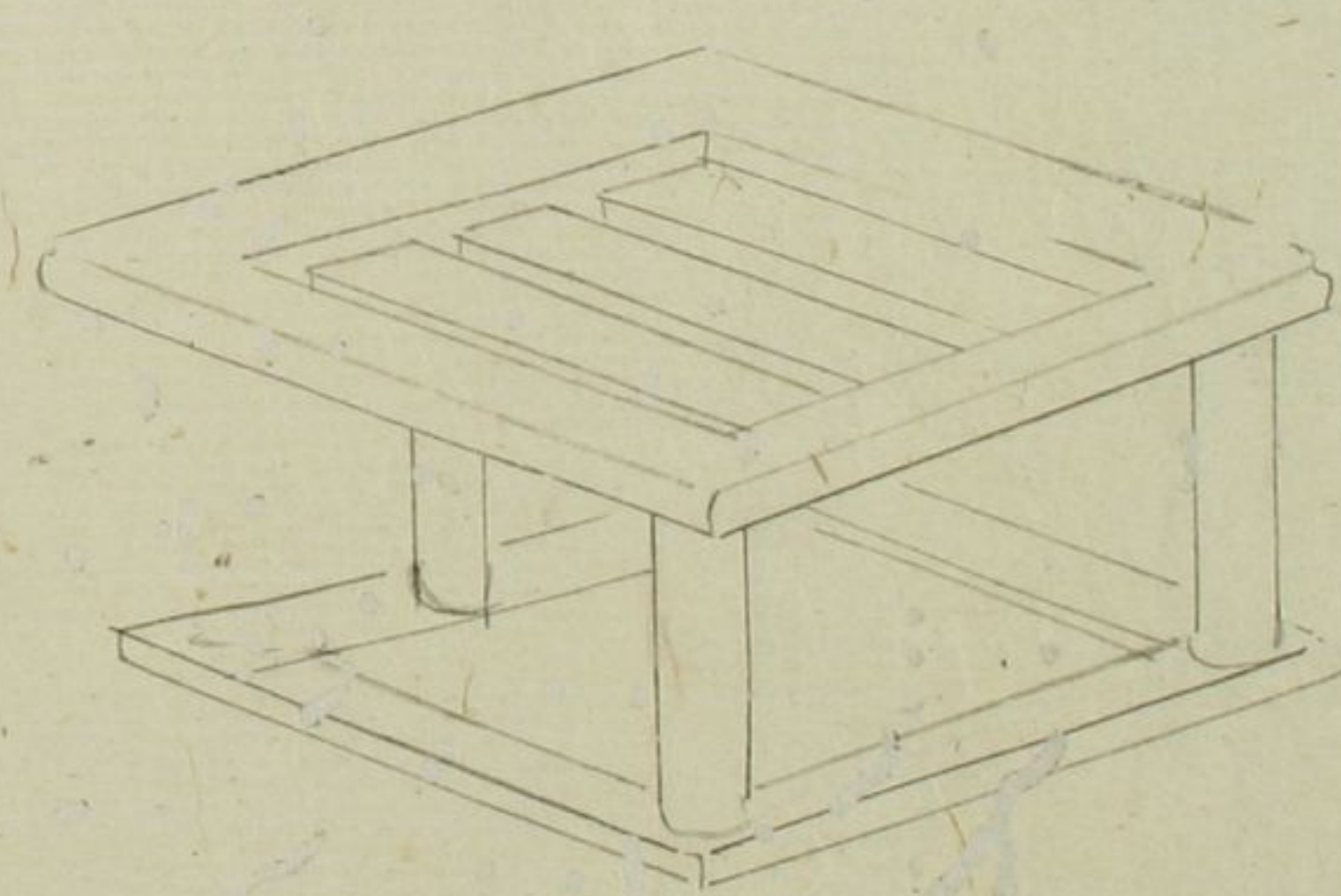


侯々家々を飛ぶ女を
 悲心の代り三世執
 事飛来りし節
 年月火桶まき
 石目あるらん年と
 昔はわが
 右の如き
 身を通りて
 社又ありて
 年刊を
 老人の物



予うさひの以蘇形と名を
 飛入のあきとくもいふ顧
 び唐のそ実品の味中
 心身と秋
 津言

辛未
 海復 膝部集



浅井樺園

ヘイガラハガラ、異品 一箱

クীগワパール 写真 一枚

駄鳥 写真 一幅

カフトガニ 一

ホロミシノ羽 二

海獣ノ圖 一

枳首蛇 ヒミエ 一

蛇ノ異品 ヒニ入

双頭亀 口

馬ノ角ト称スルモノ

猿ノハラマモリ

琥珀 虫入

白石英 米粒ノ如キモノ

蝟皮

ハリセニホニ

龍鱗竹

イサリウカ

甲高ノ亀

甲高ノ鼈

貝化石

マツホト

椰樹

大漠ノ畜 生月麴冬馬ノ豚

木造人骨

活龜

蛇鱗木

廿七品

大織冠草紙

伊勢物語

兼好後然州

豐公聚樂亭瓦

野呂瀨

一

一

一

三

一

二

一

利休作竹花活

五品

鳥屋久助

一コンヨウキン

一介品

蛭江強江車

一組七重

一石劍頭

木村庸雄

一古鏡

大野重朝

一撥夫子口

一乾鱈魚

泉州山岸和田產

石黒濟舟

一神農像

棚橋寿山

一秀吉公綾筒笠

袋入 書有二三語

一宗陳所翁画幅

一唐仙慶賀織物掛物

一趙子昂書冬至表八字

一明制衣聯 右子昂ノ書ヲ揮ハ

一元王立中^後竹根花瓶

青山場城

一明錢龍錫七言古詩絹地直幅 一

徳川後^三位

一菊下水料紙箱

聖護院宮御鎧正御詠歌 二色割

一山川硯箱

一瀧櫻御用又箱

一初音ノ手箱 内小箱七ツ入

一梨子地菊御用手箱

一白紙野蔭出机

一 凡鳥
一 馴鹿角

戸田尚一

三州藤枝坐
一 鳥水日

一 石室殿切り屑

一 鐘地貝

生エラスカ

加細縣五神社清水ニ産スル魚

鏡島標園

一銅虎符

二梳

鏡屋景七

一水晶
一竹机

平岩防之七

一 寶類三品 アイボレノツト 木象牙
モタテ 椰子

一 テウヤウトウ 折枝

一 レキミフ入り 折枝

加島藏太

一 石馬燈

一箱

一 西洋原本草品圖 三巻

合七 四冊

一 紙 紙前産海菜 加賀産
阿波アク打代

三品

一 西行法師木像

山田梁山

一 張瑞圖 絹

一箱

一 解大紳五音律直幅

一箱

一 鴻泥設色雙鹿圖

一箱

晚香堂後平

一 古鏡 一

一箱

一 對山人山水 絹地

一箱

一明七求画桃花源图 全碧

一卷

一 系 世继物话

一 度 手卷

一清月湖画山水六幅

一 幅

一 铃木龜房

一青銅寶鐸

一 鬼歌久志

一后钱

一 字

高木三郎左衛門

一 錠四ツ

一箱

一 古銭 正用品手本同共

一箱 五〇包

一 鏡

一 包

一 罌石

一 包 紐

一 乳蒼石

一 包

一 西洋石

一 包

一 他石 其他石類

一 包 紐

一 石 品

一 包 紐

一 石

一 包 紐

一 石

一 包 紐

一 黒玉 其石力

一 包

一 枇杷ガラ石

一 包

一 大貝代石

一 包

一 行甚後物

一 包

森島甲鳥

筆原

一 狸子

肉の毛

一 清人

岡部半島

一 石堂竹林像

一幅

野山

一 鯨目

一 介呂

一 七

吉島

一幅

一 山口鹿角

清水太

一幅

一 梅道人

吉島

一幅

一 藤吉

一 殿押繪細工

山口屋喜十郎

高石

北生

金札

如左表之

古中画竹洞
嘉言言々作
實如表之

三 生供御之御
兼御竹五色甲片漆
鏡馬旗園所藏

兼御竹五色甲片漆

兼御竹五色甲片漆

兼御竹五色甲片漆

兼御竹五色甲片漆

兼御竹五色甲片漆

兼御竹五色甲片漆

兼御竹五色甲片漆

兼御竹五色甲片漆

兼御竹五色甲片漆

上代覽

古月

奉御

二月

古月

義家

御天

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 孔明入陣形鉄文海

文政七年甲申由學問之長 角三敬白

箭形短冊掛

琉球形金川用盤

古舞衣振

唐衣振

古代面稱

古舞衣振

古舞衣振

古舞衣振

是也

是也

是也

是也

是也

是也

是也

是也

是也

是也



海澄子口豆

永形漆器

古渡大ワラス二第

白粉法

古銅鑄劍

琉球金筆

古銅鑄劍

古銅鑄劍

古銅鑄劍

古銅鑄劍

釋迦院

是也

是也

是也

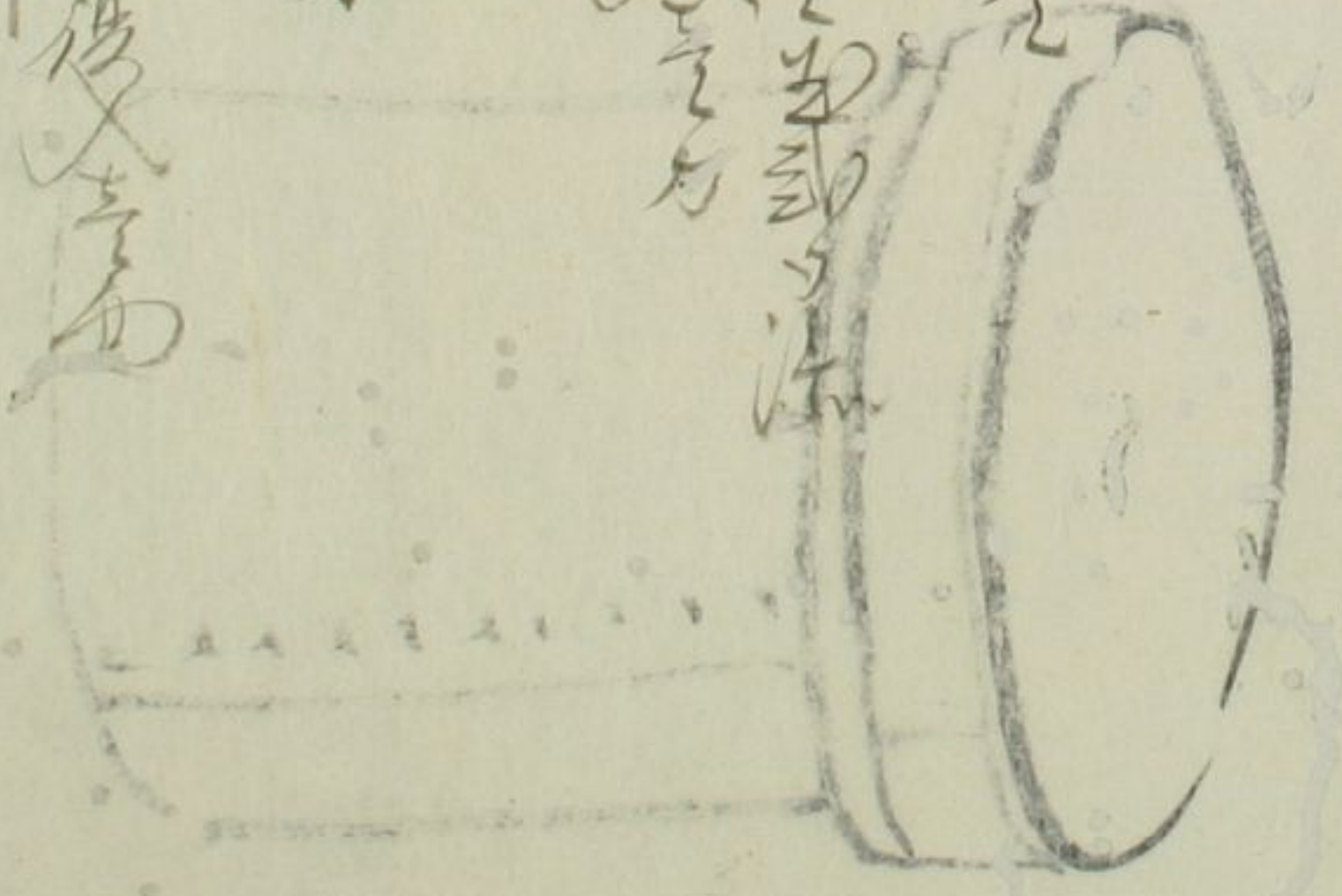
是也

是也

是也

是也

是也



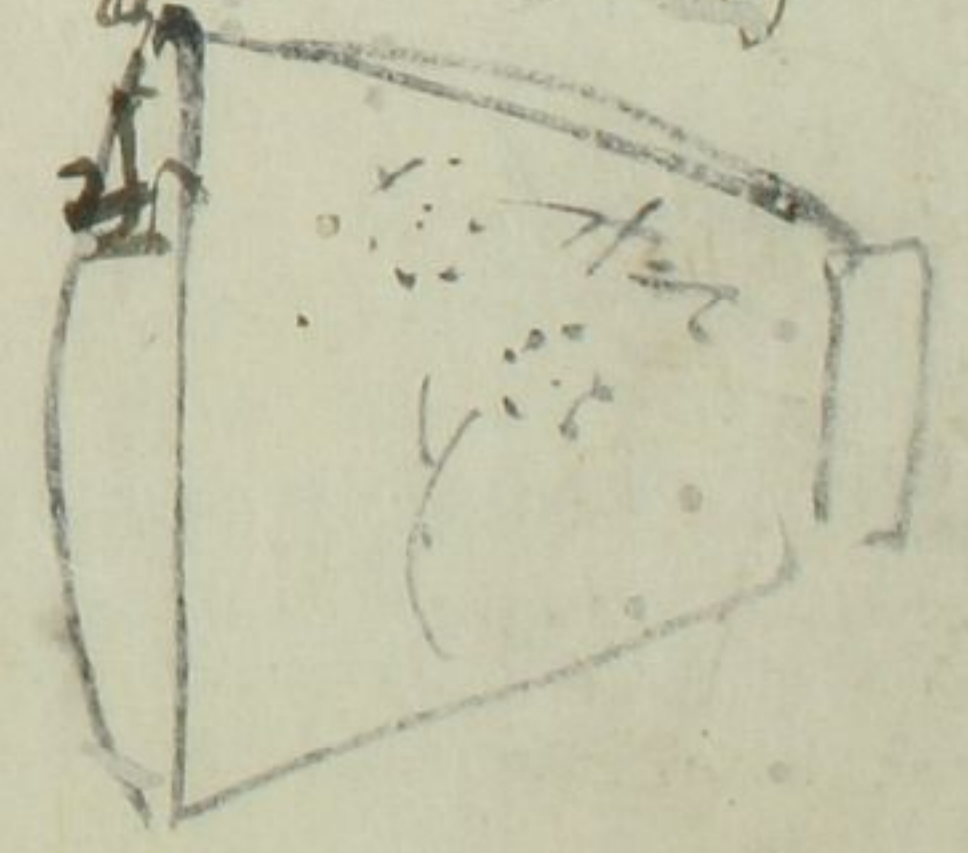
傳末 古銅鑄劍

大小蛇貝

是也

- 一 古代刀掛 池邊掛
- 一 古代丸者 櫃
- 一 古代折画 池邊掛
- 一 古代唐劍 古子抄
- 一 古代世書 古子抄

右ノモノノ内ヨリ程ニテ博覧會ニ出



目録

一 古代刀掛 池邊掛
 一 古代丸者 櫃
 一 古代折画 池邊掛
 一 古代唐劍 古子抄
 一 古代世書 古子抄

古代丸者
 古代折画
 古代唐劍
 古代世書

目録

近江産

一 群化石 志水

豊後速水郡

一 明礬 志水

一 榎藤子 志水

山形梅造画

一 豪猪ノ画 徳和 志水

尾張知多郡内海産

一 魚石

一 キセリノ類 四品

一 蝦夷トクニボウ 志水

一 目アツシノ服 志水

一 糸札ノ張ルル 志水

中野 雜纂 志水

一 クニラノハラ骨

一 拾遺

石通指 志水

十月

伊藤 志水



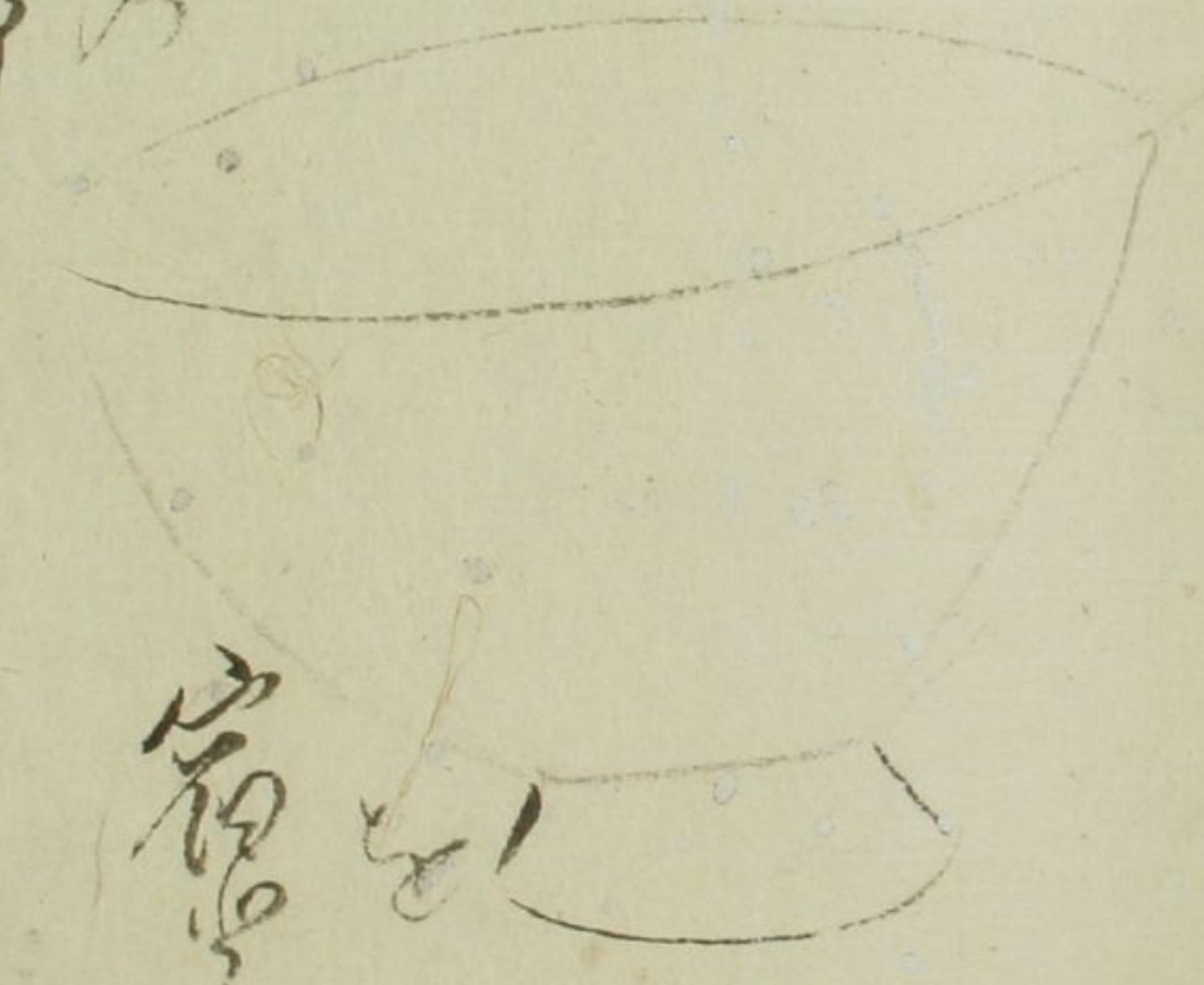
一 古代刀掛 池邊掛
 一 古代九折掛 舟
 一 夜折画 池邊掛
 一 黄唐劍 古子抄
 一 一 筆坊 古子抄

一 陽 簪 古子抄
 一 一 簪 古子抄
 一 一 簪 古子抄

春の鏡

いれ

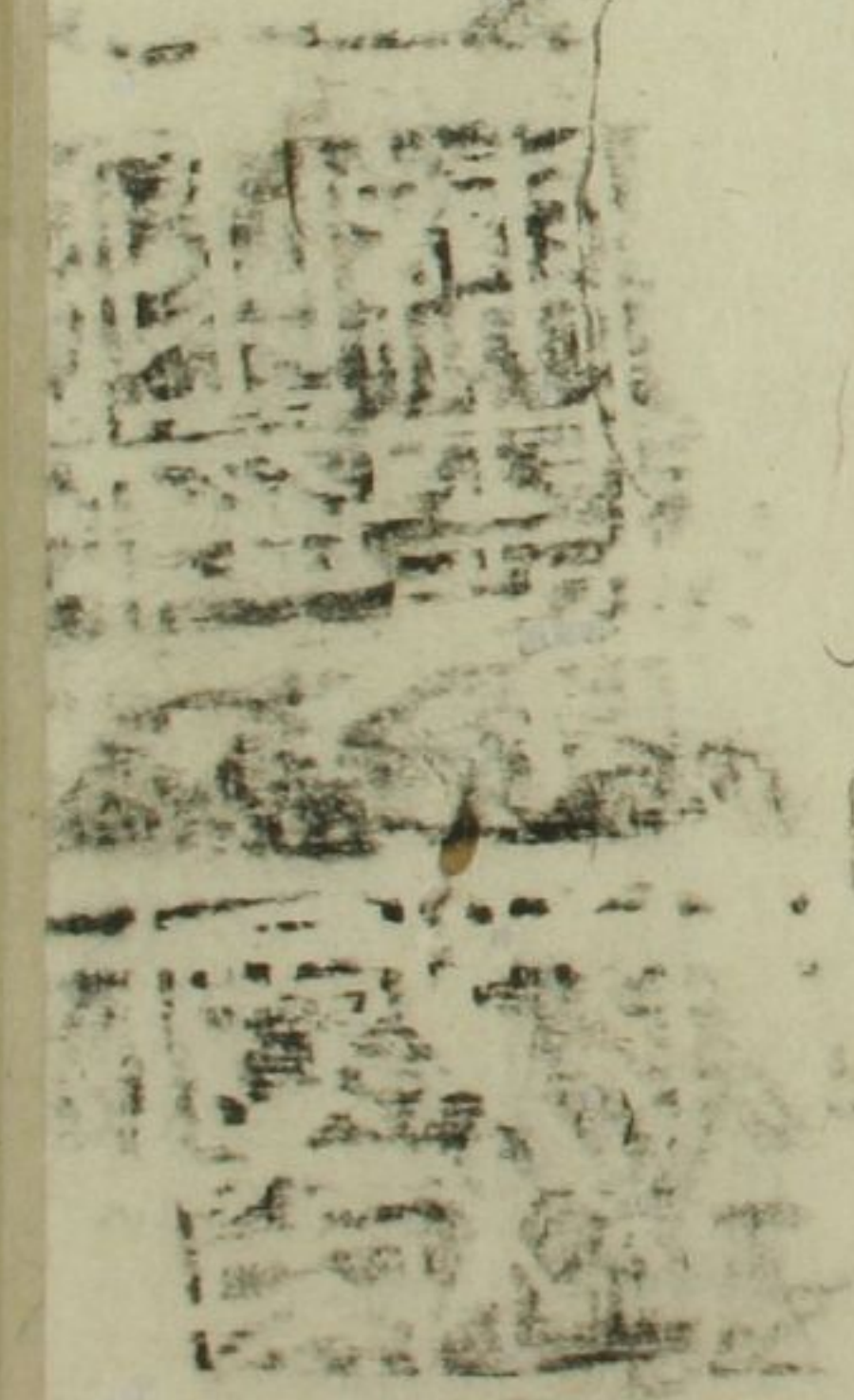
湯也

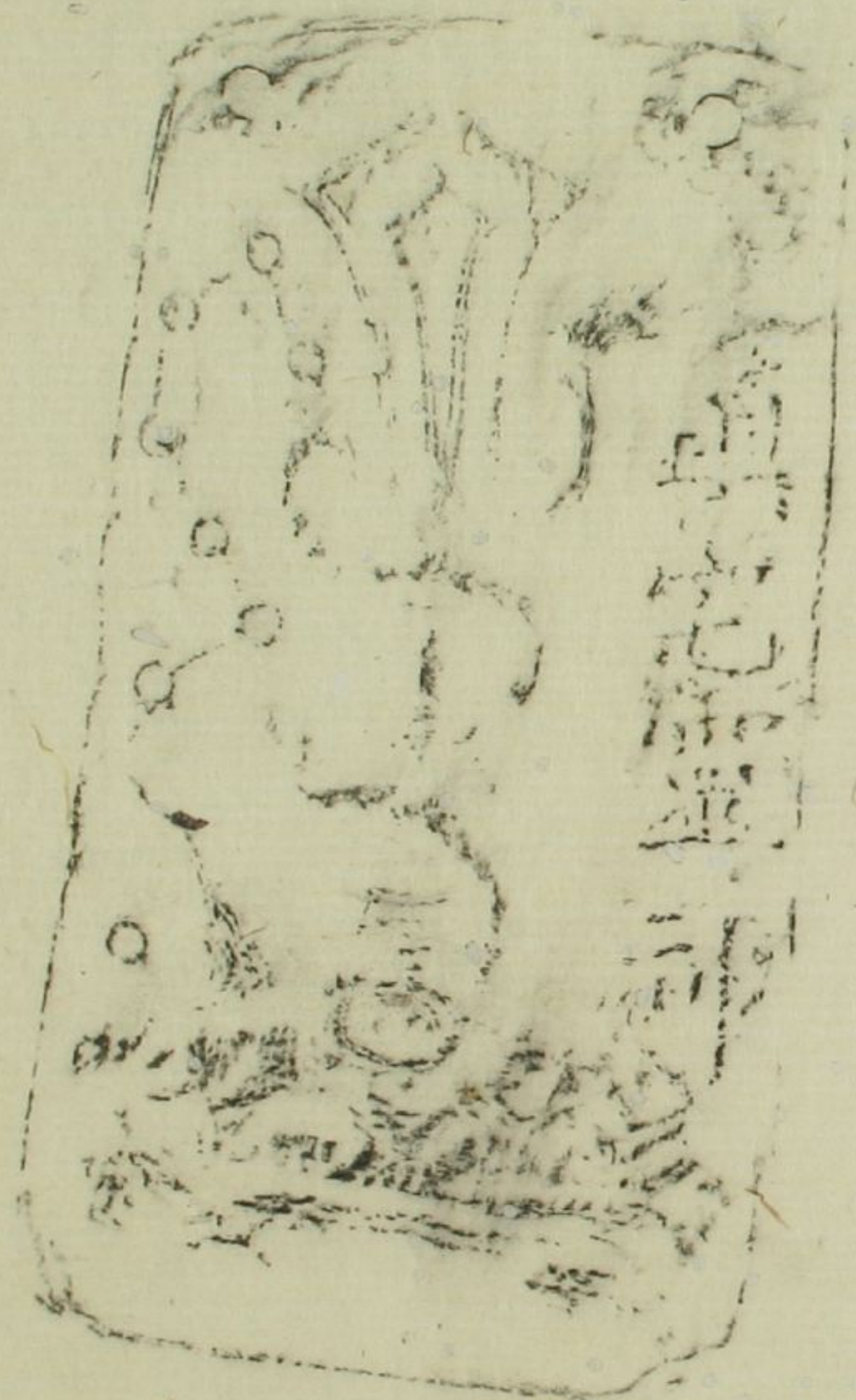


古子抄

あ

一 一 一 一
 一 一 一 一
 一 一 一 一





鎮宅靈神

宋至道三年

渡道
神佛
善
禪

三物原の虎を祀

あまのついで

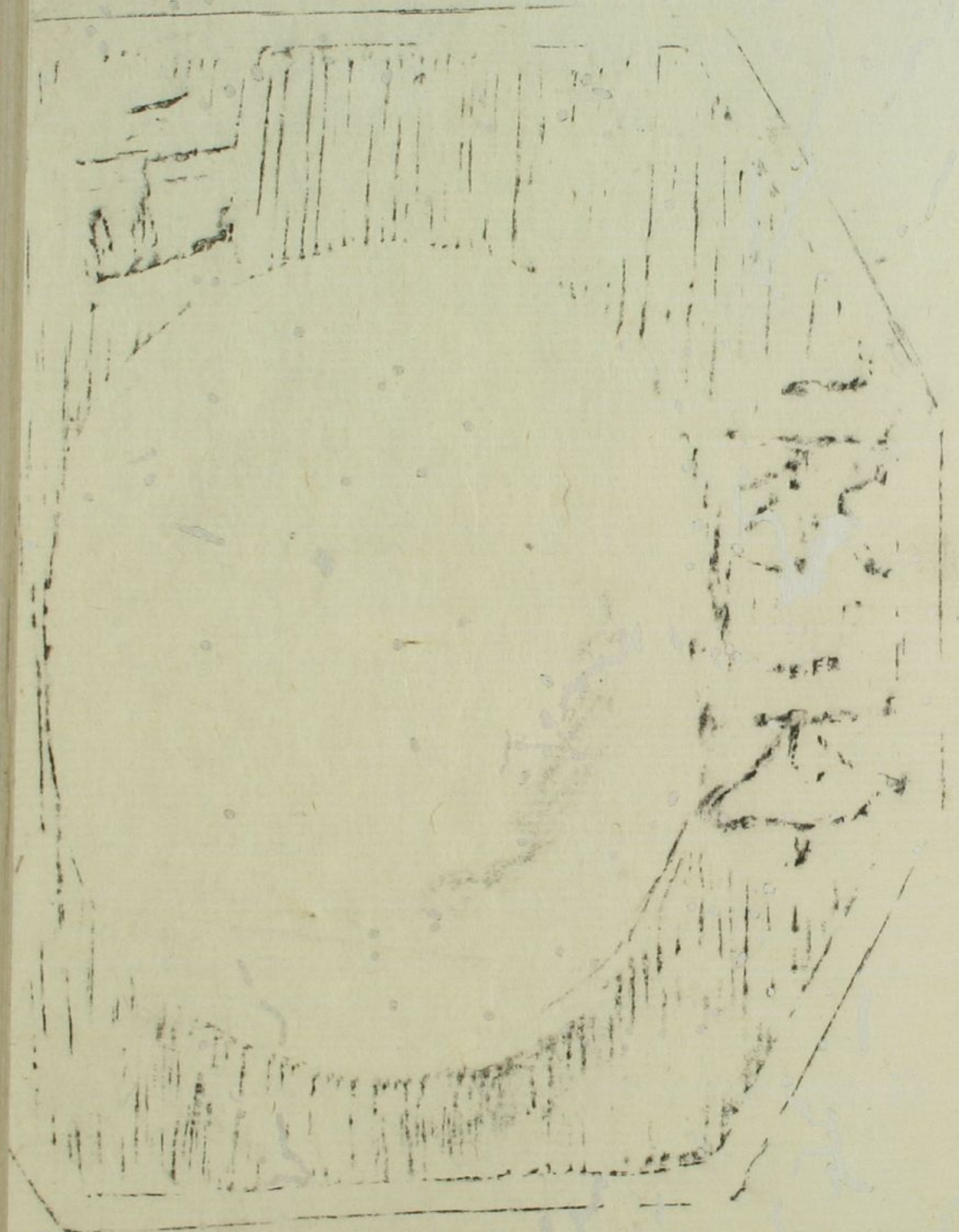
牛のついで

新神

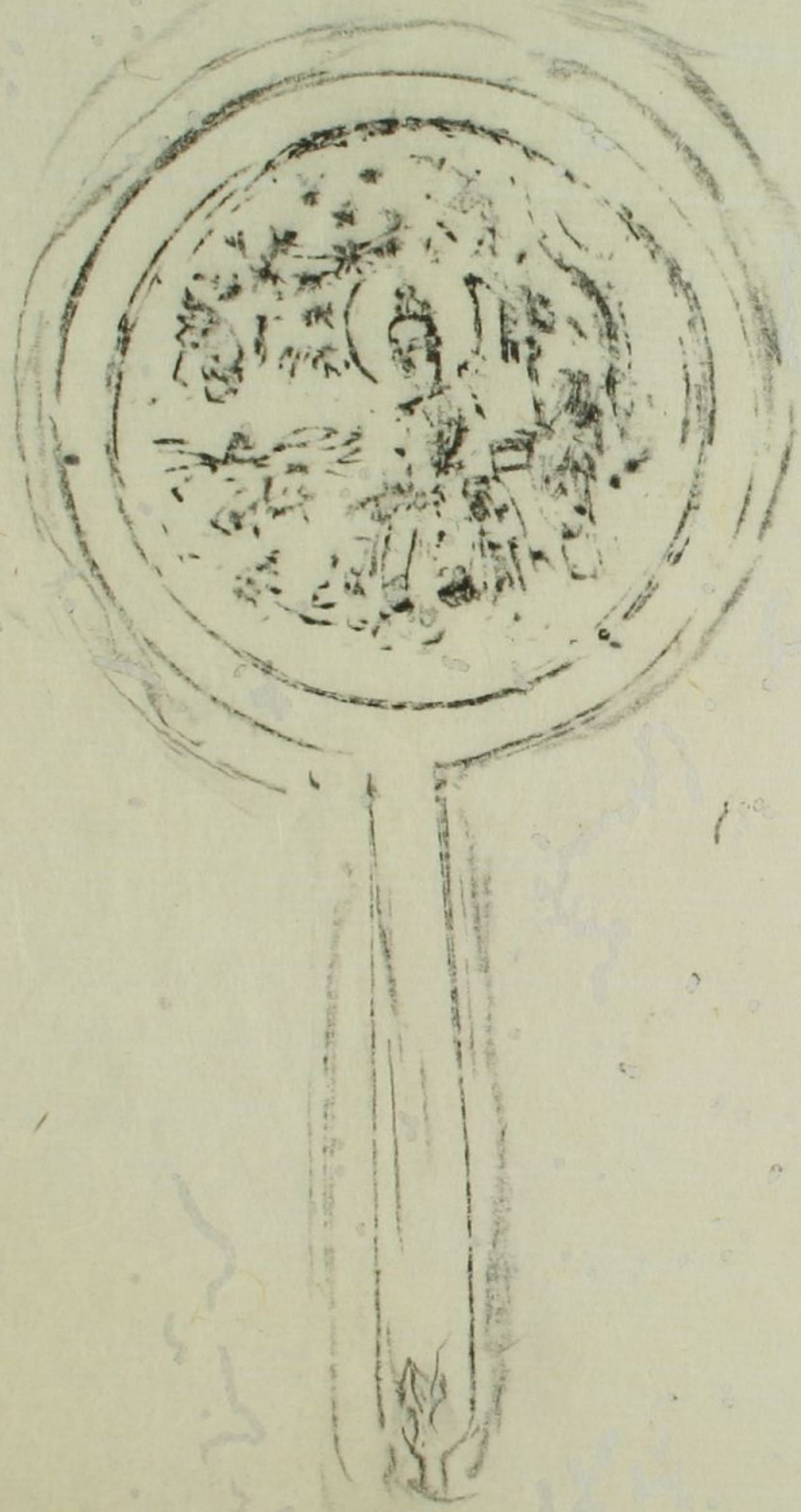
高きものついで

御

・

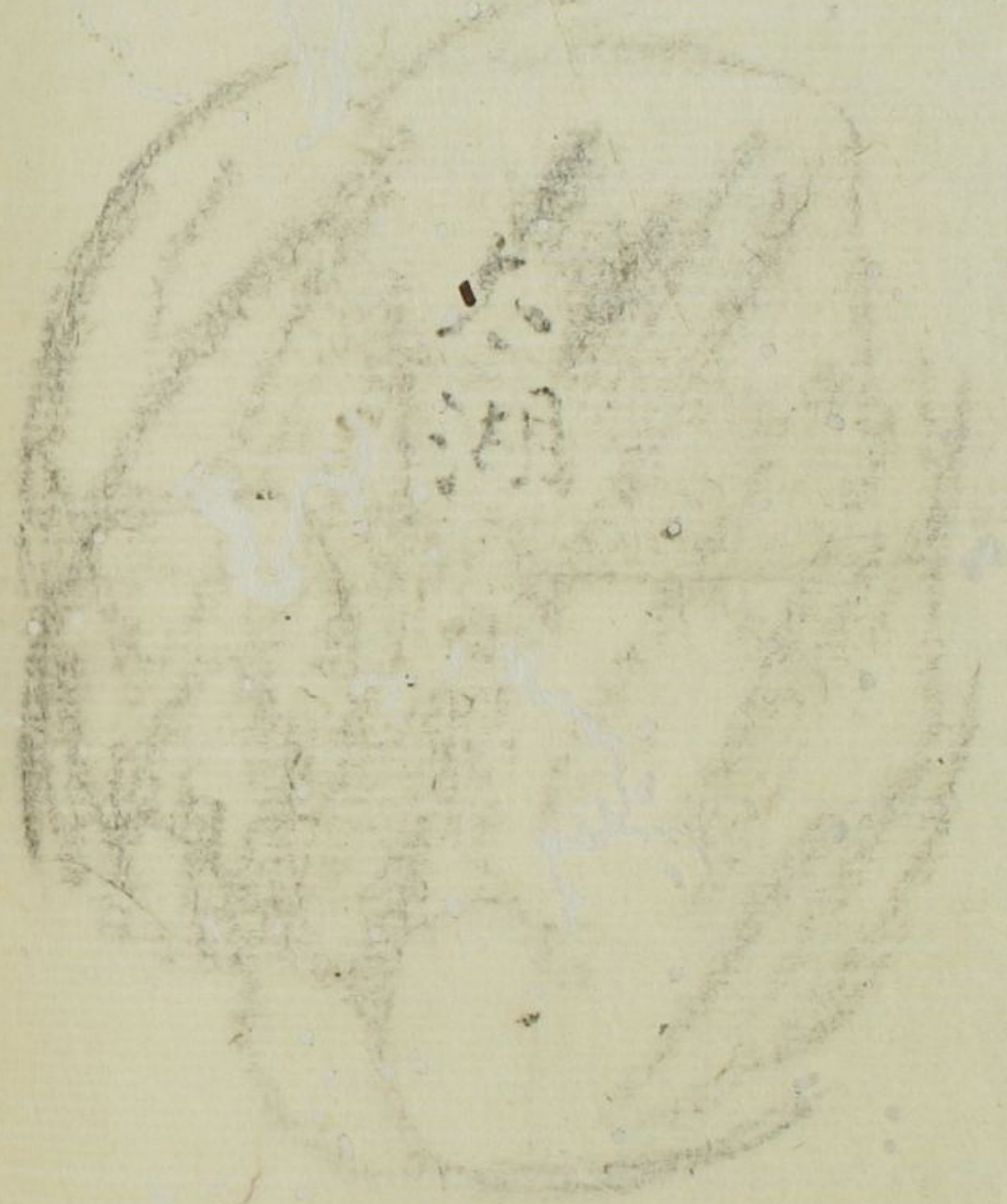


奉此聖神... 一切災難... 永年歲...
奉此聖神... 一切災難... 永年歲...
奉此聖神... 一切災難... 永年歲...
奉此聖神... 一切災難... 永年歲...



鏡箱

高木三郎





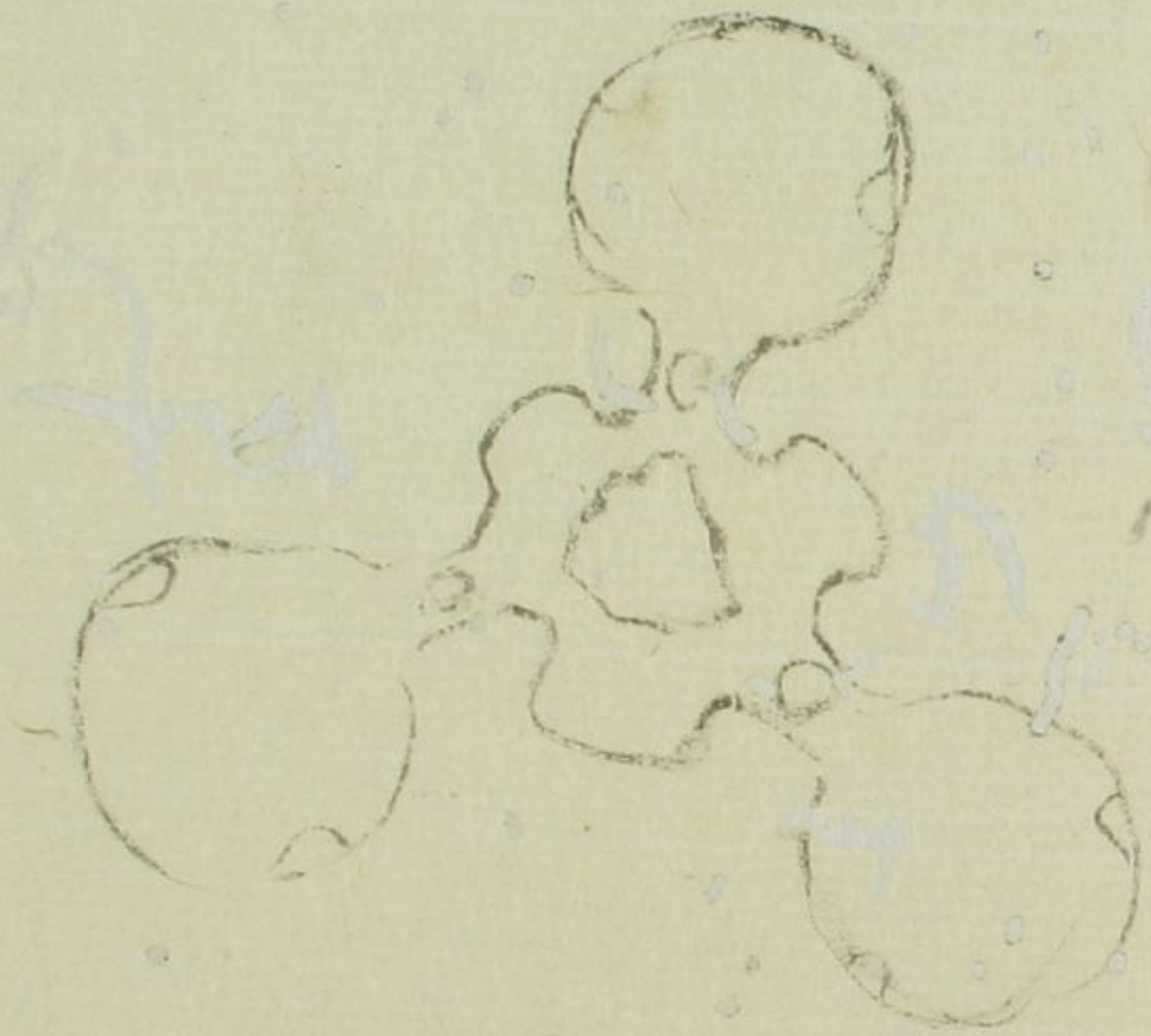
齊
月
日

願
信

三年
定慶

川
川

總見奇藏



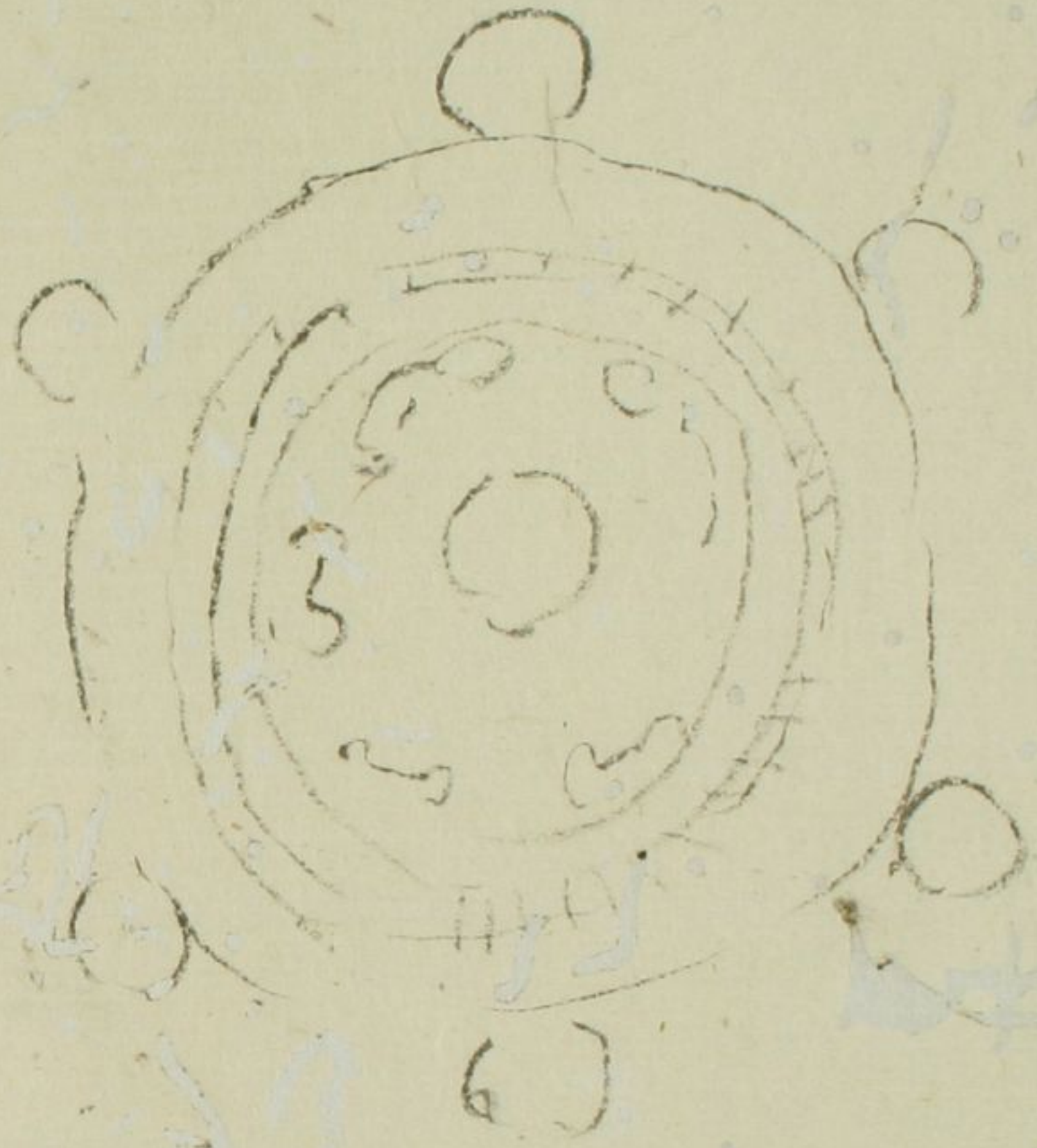
高木堂

清水丹
後水



玉鏡

神代六鈴鑄



流冠加成
石堂竹林之像

日本
武藏之真書

因部代
不持之系

石堂筆



細野忠陣

櫻花石 讚皇國小豆島東神宮年 後山行在

物品 銘 今石 村松天神社

古誓 八十七

古矢立



言傳

國若年車之乘 寫十真原花街
那此ノラセラレシ 密若宮前ニ
其邊ノ別懐ニ 願好ノ餘教
ナリトガ

祖先荒名村ニ 祖在并之道
ナリタルカ 梓鏡ニ 珍蔵セリ
江川 如藤 寺子 御侍

箱

十卷

久福集修徳公日記

櫻華書院

珠玉堂



禁制

北生村六福寺

一甲乙人監妨狼藉

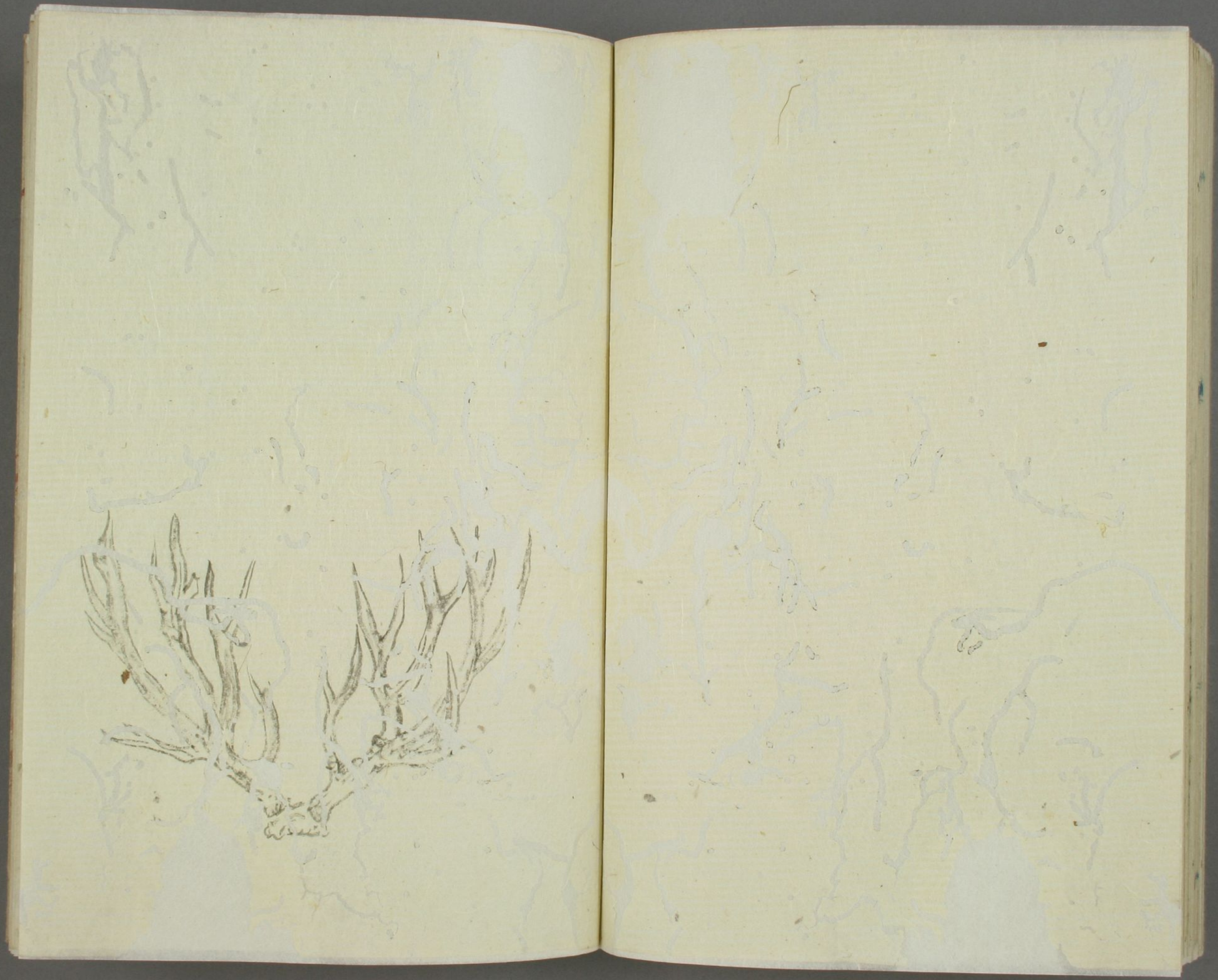
一碎取放火

一伐採亦未平

古藤

永福寺

永福寺





博物新編譯解

園ノ鹿



是等ノ類ハ

練鵲

ハラカクイム。ホクケル。鳥ト云フ。

阿武係年

蟻多阿

兩川ノ産ナリ

樹木ニ宿ル

夜

飛テ以風

存食

由依

ト云フ

捕ル事

難及

老鳥

降

捕ル事

也

如直

其

綿

至

精

淨

二天

程

容

放

正

也

文化

三

兩

寅

和

葉

右雀

葉

奔

特

物

會

覽

一月日貝

三箱

一古板画本類

三品

一春画卷物

或卷

一古瓦

三品

右

名古瓦與片端筋

胡至久為

書畫類

永東宋卷五十四

古銅器

成卷五十四

書畫類

森田小姓

文房具

石新堂卷五十四

拾四 拾三 拾二 拾一 九 八 六 五 四
点 点 点 点 点 点 点 点 点

神代 神代 神代 神代 神代 神代 神代 神代 神代
高武 高武 高武 高武 高武 高武 高武 高武 高武
海象 海象 海象 海象 海象 海象 海象 海象 海象
清册 清册 清册 清册 清册 清册 清册 清册 清册
香鬘 香鬘 香鬘 香鬘 香鬘 香鬘 香鬘 香鬘 香鬘
寶鐸 寶鐸 寶鐸 寶鐸 寶鐸 寶鐸 寶鐸 寶鐸 寶鐸
玉屏 玉屏 玉屏 玉屏 玉屏 玉屏 玉屏 玉屏 玉屏
白玉 白玉 白玉 白玉 白玉 白玉 白玉 白玉 白玉
鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角 鹿角
工日 工日 工日 工日 工日 工日 工日 工日 工日

横山 横山 横山 横山 横山 横山 横山 横山 横山
山鈴 山鈴 山鈴 山鈴 山鈴 山鈴 山鈴 山鈴 山鈴
伊藤 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤
藤主 藤主 藤主 藤主 藤主 藤主 藤主 藤主 藤主
晚香 晚香 晚香 晚香 晚香 晚香 晚香 晚香 晚香
香堂 香堂 香堂 香堂 香堂 香堂 香堂 香堂 香堂
森本 森本 森本 森本 森本 森本 森本 森本 森本
本紫 本紫 本紫 本紫 本紫 本紫 本紫 本紫 本紫
横山 横山 横山 横山 横山 横山 横山 横山 横山
山鈴 山鈴 山鈴 山鈴 山鈴 山鈴 山鈴 山鈴 山鈴
丹州 丹州 丹州 丹州 丹州 丹州 丹州 丹州 丹州
大桑 大桑 大桑 大桑 大桑 大桑 大桑 大桑 大桑
三輪 三輪 三輪 三輪 三輪 三輪 三輪 三輪 三輪
墨里 墨里 墨里 墨里 墨里 墨里 墨里 墨里 墨里
晚香 晚香 晚香 晚香 晚香 晚香 晚香 晚香 晚香
屋久 屋久 屋久 屋久 屋久 屋久 屋久 屋久 屋久

金石

新器

刀劍

本草

魚子

三物

友堂

物四

信四

山田

音百

三物

